



福井県における地域鉄道支援の取り組み ～えちぜん鉄道の発足から挑戦を中心に～



平成29年6月16日(金)

福井県 総合政策部 交通まちづくり課 並行在来線対策室 室長 平林 透

福井県の概要① 福井と釧路の位置関係



福井市と釧路市は

- 車で1500km22時間
- 鉄道で16時間

6:00県庁発→22:00着

- 飛行機でも9時間

5:50県庁発→15:15着

福井県の概要② 概況と公共交通



北海道(北海道庁HP)
人口550.6万人
面積83,424km²
35市129町15村

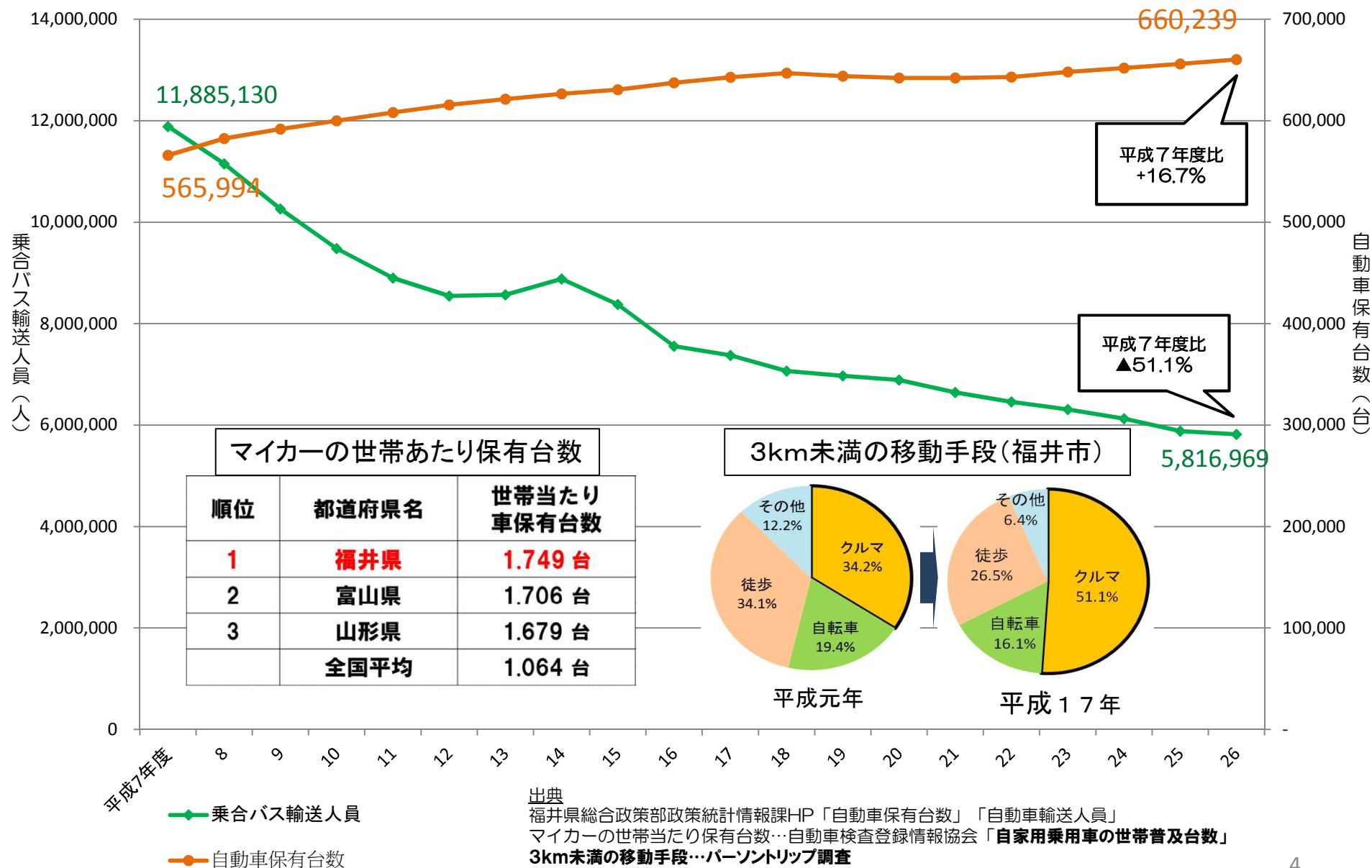


福井県

(H27.10現在)

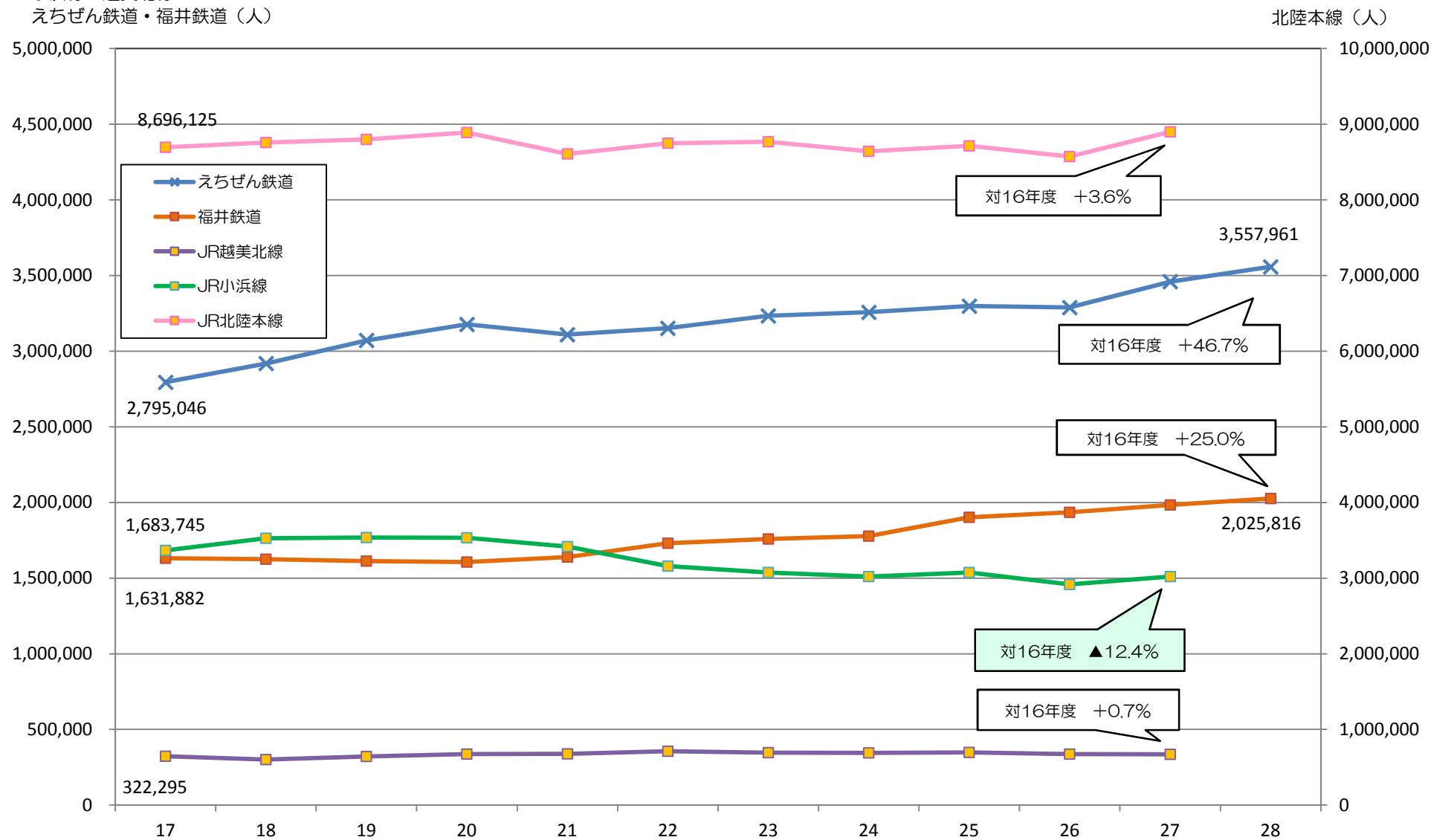
人口	78.7万人
面積	4,190km ²
自治体数	9市8町

福井県の概要③ 乗合バス輸送人員と自動車保有台数



福井県の概要④ 県内の地域鉄道の現状

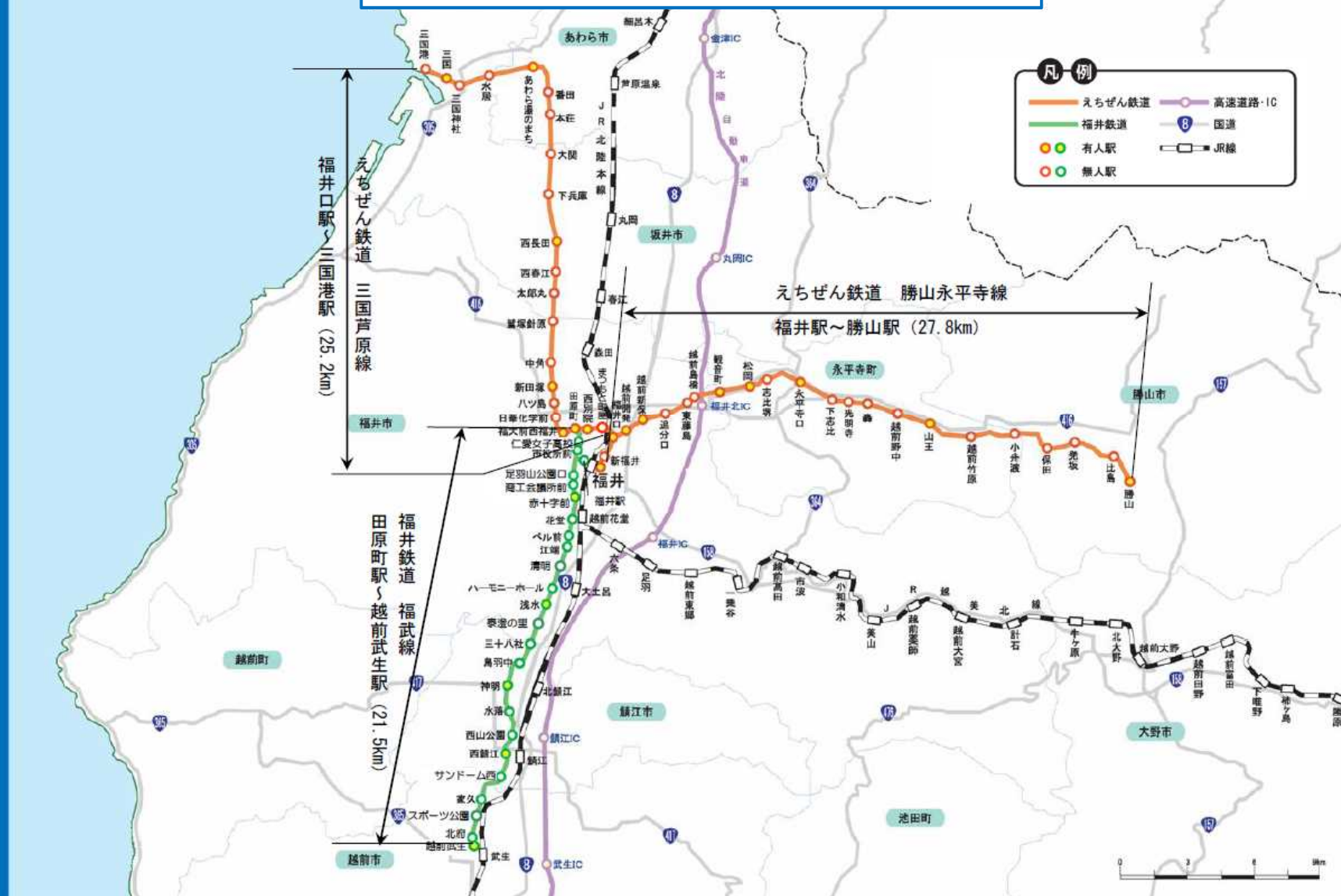
小浜線・越美北線
えちぜん鉄道・福井鉄道（人）



出典
福井鉄道・えちぜん鉄道：H16～H27福井県統計年鑑
JR：H16～H27福井県統計年鑑 1日平均乗車人数×365で算出

福井県(嶺北エリア)の地域鉄道の概要

福井県 北部 鉄道網図



えちぜん鉄道の概要① 沿線の観光地



えちぜん鉄道

沿線観光名所案内図

えちぜん鉄道の概要② 沿線の四季、祭り



えちぜん鉄道の概要③(衝突事故から再生～平成28年3月まで)

～えちぜん鉄道株式会社～

営業路線延長 53.0km
(三国芦原線) 25.2km [鉄道区間]
(勝山永平寺線) 27.8km [鉄道区間]

使用車両 大型車両 21編成
低床車両 2編成



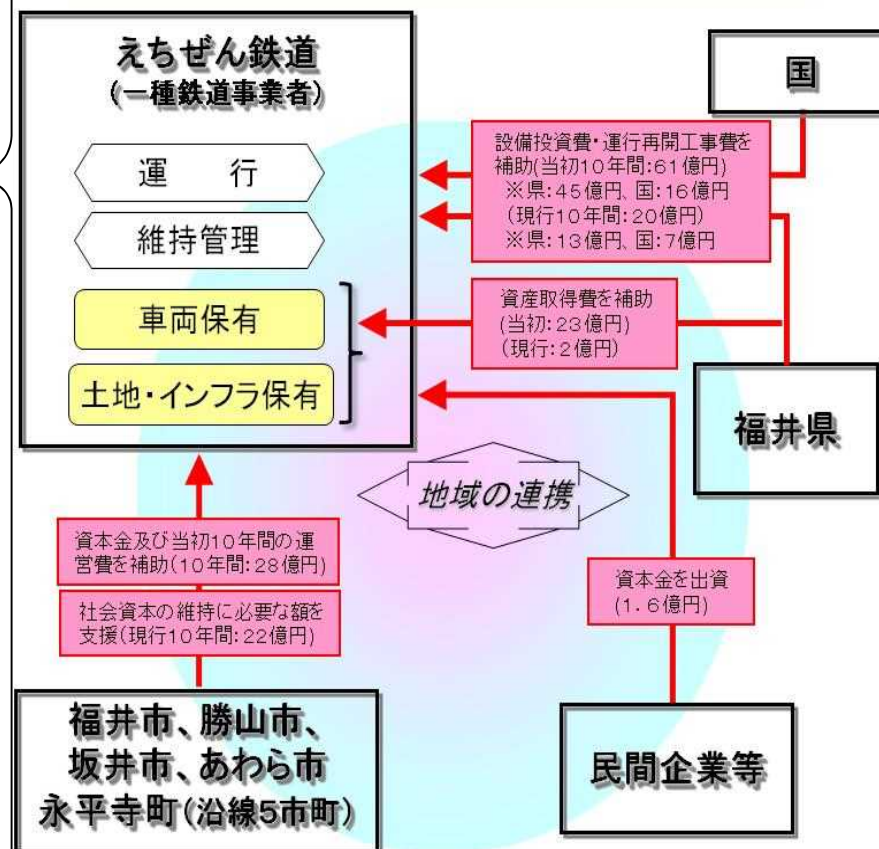
～ 沿革 ～

平成12年12月 京福電車 衝突事故
平成13年 6月 " 2回目の衝突事故
7月 国が京福電鉄に対し「事業改善命令」
12月 県議会で鉄道存続に関する請願・陳情採択
平成14年 1月 知事と沿線市町村長の間で第三セクター方式による鉄道存続を決定
9月 えちぜん鉄道株式会社設立
平成15年 2月 京福電鉄からえちぜん鉄道に事業譲渡
7月 勝山永平寺線(福井～永平寺口)、三国芦原線(福井口～西長田)部分開業
8月 三国芦原線 全線開通
10月 全線開通
平成17年 2月 サポータークラブ発足
平成19年 9月 めざましトレインによる早朝運行の開始
新駅設置(ハツ島駅、日華化学前)
平成21年 7月 65歳以上のサポーターズクラブ会員の割引拡大
平成24年 2月 えちぜん鉄道活性化連携計画案を取りまとめ
24年度以降の10年間の支援に合意
3月 連携計画を国に送付
10月 福井鉄道との乗継運賃割引の開始
平成26年 4月 きょうりゅう電車による特別運行開始
6月 えち鉄CAFÉの設置
平成27年 9月 EV車によるカーシェアの実施
新駅設置(まつもと町屋駅)
新幹線高架による仮線運行開始
平成28年 3月 相互乗り入れ開始

利用者推移
H15年度 1,382千人
H16年度 2,424千人
H17年度 2,918千人
H18年度 2,918千人
H19年度 3,071千人
H20年度 3,177千人
H21年度 3,109千人
H22年度 3,152千人
H23年度 3,233千人
H24年度 3,257千人
H25年度 3,297千人
H26年度 3,288千人
H27年度 3,459千人
H28年度 3,559千人

支援スキーム

(当初:10年間 平成14年度～23年度)
(現行:10年間 平成24年度～33年度)



《主要株主》 坂井市(17.4%) 勝山市(16.7%) 福井市(16.1%)
永平寺町(12.6%) あわら市(7.0%)



平成29年度の利用者目標 360万人

(平成28年度356万人)

うち相互乗り入れの利用者目標 14万人

(平成27年度比9万人増)

その他関連

平成29年04月 旧永平寺線廃線跡でのクルマの自動走行実証実験の実施 (p81)

平成29年04月 永平寺口駅周辺での再生可能エネルギー活用事業の実施 (p83)

平成29年12月 相互乗り入れ先の福鉄福武線市役所前電停改修切替予定 (p73)

平成30年03月 田原町駅周辺整備運用開始予定 (p71)

平成30年03月 三国駅改修運用開始予定

平成30年夏 福井駅周辺連立事業高架切替・福井駅他高架駅供用予定 (p34)

平成30年09月 ふくい元気国体・大会 開催

平成35年春まで ICカード乗車券の導入検討 (p80)

平成35年春 北陸新幹線福井県内部分開業 (p74)

51年前＝昭和41年(1966年)の福井県 嶺北の鉄道は？



引用

鉄道地図【12】 越美北線開通・私鉄各社一部廃線

昭和22(1947)年～昭和37(1962)年

福井鉄道鯖浦線

昭和22年 福武線と鯖浦線の連絡線

を設け貨車を取り入れ

昭和34年7月19日 連絡線を旅客化し

鯖浦線から福井駅前まで直通運転

昭和37年1月25日

水落(信)-鯖江 廃止

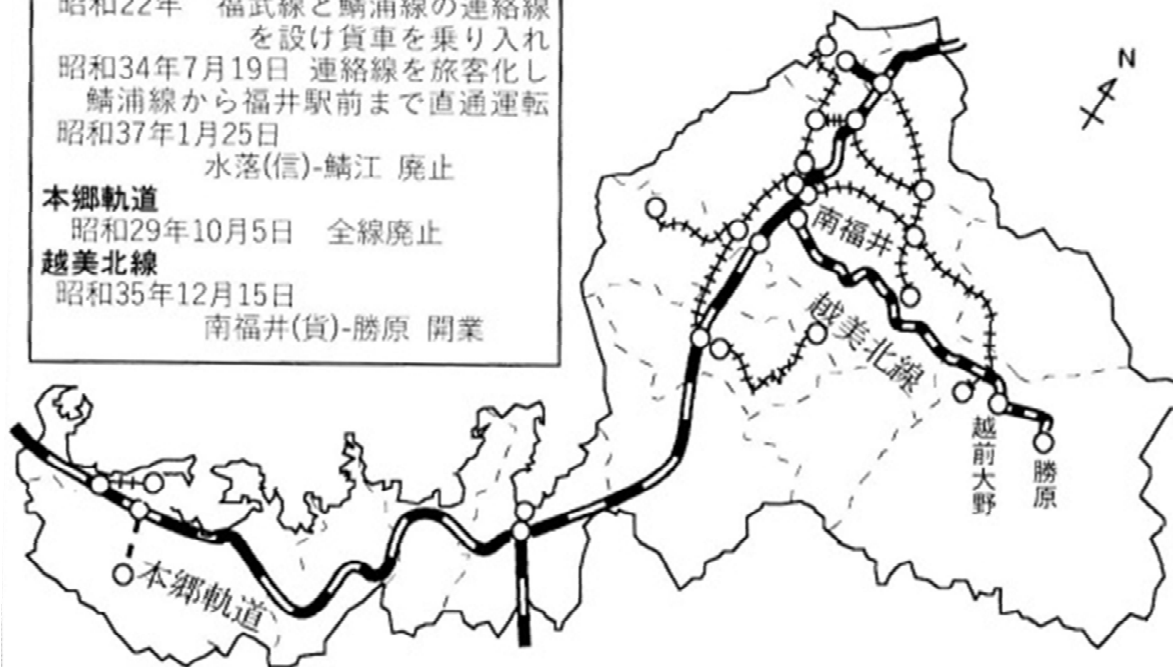
本郷軌道

昭和29年10月5日 全線廃止

越美北線

昭和35年12月15日

南福井(貨)-勝原 開業



福井鉄道9,477千人
【ピークS39=9,715千人】

福井県乗用車17,233台

(一財)自検協HP引用
(S40.10.1人口750,557人)

41年前・31年前・21年前・11年前の福井県嶺北の鉄道の利用状況

鉄道地図【13】 越美北線延長・三国線廃止・私鉄各社廃線つく
昭和43(1968)年～昭和56(1981)年

越美北線	昭和47年12月15日	勝原-九頭竜湖	延長開業
三国線	昭和47年3月1日	全線廃止	
京福電鉄丸岡線	昭和43年7月11日	全線廃止	
永平寺線	昭和44年9月18日	金津-東古市間廃止	
越前本線	昭和49年8月13日	勝山-京福大野間廃止	
福井鉄道鯖浦線	昭和47年10月12日	西田中-織田間廃止	
	昭和48年9月29日	全線廃止	
南越線	昭和46年9月1日	粟田部-戸ノ口間廃止	
	昭和56年4月1日	全線廃止	
犬見鉱山軌道	昭和52年12月25日	全線廃止	

京福電鉄

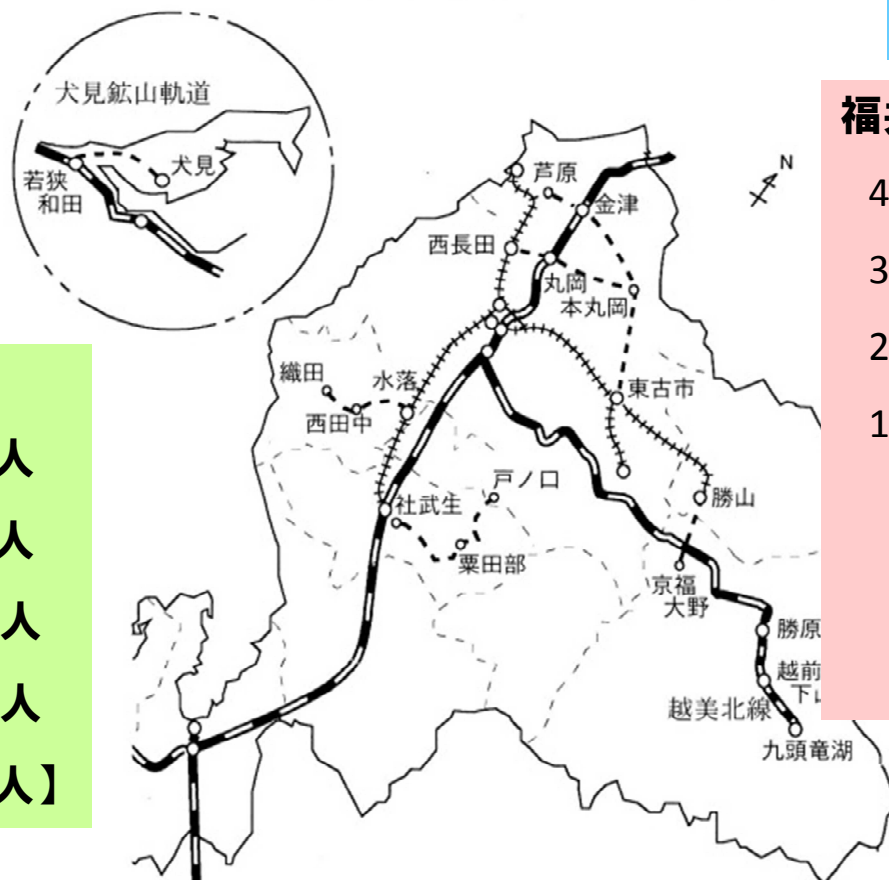
41年前S51=7,775千人

31年前S61=4, 171千人

21年前H08=3,503千人

11年前H18=2,918千人

【底_{H16}=2,425千人】



福井鉄道

41年前S51=5,394千人

31年前S61=3,517千人

21年前H08=2, 204千人

11年前H18=1,625千人

【底_{H20}=1, 606千人】

福井県 乗用車 保有台数

41年前S51=138,463台

31年前S61=216,358台

21年前H08=353,412台

11年前H18=467,454台

(一財)自檢協HP引用

(S50.10.1人口773,599人)

(S60.10.1人口773,599人)

(H07.10.1人口817,633人)

(H17.10.1人口773,599人)

京福電鉄2度目の列車衝突事故(平成13年6月)までの経緯

大正3年2月	京都電灯・越前電鉄線 新福井～市荒川間が福井県内初の電気鉄道として開業（現勝山永平寺線）
大正14年9月	永平寺鉄道 永平寺（現永平寺口）～永平寺門前開業
昭和3年12月	三国芦原電鉄 福井口～芦原間開業（現三国芦原線）
昭和39年	輸送人員が1,500万人を超え、ピークに達する（以後下降をたどる）
平成元年	輸送人員が400万人を下回る
平成4年2月	京福電鉄が越前本線（東古市～勝山間）および永平寺線のバス転換計画発表
平成9年3月	県、沿線市町村（福井市、勝山市、松岡町、永平寺町、上志比村）と京福電鉄の間で存続の基本合意
平成10～12年度	京福電鉄越前本線・永平寺線に対する行政支援の実施
平成12年12月17日	越前本線（志比塚～東古市間）で列車衝突事故発生（2月23日運転再開）
平成13年6月24日	越前本線（保田～発坂間）で2度目の列車衝突事故発生
6月25日から、越前線全線において電車の運行が停止し、バス代行が行なわれる。	

突然の全線バス代行(H13.06.25～H15.10.19) = “負の社会実験”

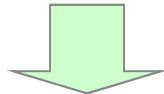
事故翌日より電車が止まる

■ ■ ■

電車代行バスの運行 【2年5ヶ月】

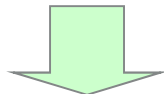
しかし…

- ・定時制が確保できない(特に冬季)
- ・乗り心地が悪い(クルマ酔い)…等の問題



・バス離れ (マイカー・家族による送迎)

2年5ヶ月間で電車乗客の50%以下になり、代行バスは電車の代替にならないことが実証される



・一般道の交通渋滞

関係ないと思っていた人も
電車の重要性を認識



2度目の衝突事故翌日(H13.06.25)から全線開通(H15.10.19)まで①

H13.06.25 越前線全線において電車の運行が停止し、バス代行が行われる

H13.07.19 中部運輸局から京福電鉄に対する「安全確保に関する事業改善命令」

H13.10.16 福井県総合交通課に「京福越前線対策プロジェクトチーム」設置

H13.10.19 京福電鉄から国へ事業廃止届を提出

H13.11.06 第1回 知事と沿線市町村長会議

H13.11.24 第2回 知事と沿線市町村長会議

H13.12.19 県議会閉会

※請願第67号(京福線存続に関する請願)、陳情第32号(電車存続に関する陳情)は、ともに採択となったが、厚生警察常任委員会の委員長報告において、下記の条件が付された。

- ・投資的経費は、全額県が負担する。
- ・開業、運営は、沿線市町村が責任を持ち、県は参画しない。
- ・開業後20年間は鉄道の運行を維持する。

H14.01.10 第3回 知事と沿線市町村長会議

H14.01.22 第4回 知事と沿線市町村長会議

※県と沿線市町村が、越前本線と三国芦原線を第3セクター方式により存続させることについて、今後、各議会と協議することで合意。

2度目の衝突事故翌日(H13.06.25)から全線開通(H15.10.19)まで②

H14.04.01 福井県新鉄道会社支援室設置

H14.08.23 新鉄道会社設立発起人会議開催

※「えちぜん鉄道株式会社」を社名とすることなどを決定。

H14.09.17 「えちぜん鉄道株式会社」を福井地方法務局において登記完了
「えちぜん鉄道株式会社」設立

H14.10.01 えちぜん鉄道株式会社業務開始

H14.10.10 えちぜん鉄道と京福電鉄との間で、営業譲渡契約の締結

H14.11.07 鉄道事業譲渡譲受認可申請

H15.01.17 中部運輸局より鉄道事業譲渡譲受認可

H15.07.20 勝山永平寺線 福井～永平寺口、三国芦原線 福井口～西長田間において
鉄道運行開始

H15.08.10 三国芦原線 西長田～三国港間が開通し、三国芦原線は全線開通

H15.10.19 勝山永平寺線 永平寺口～勝山間が開通し、全線開通

平成13年11月18日 沿線住民の結束＝存続訴え「駅伝大会」

京福電鉄越前線 「レール外したら復線ない」

存続訴え「駅伝大会」

京福電鉄越前線の存続問題で、勝山市や永平寺、松岡町、上志比村などの沿線住民らは十八日、沿線歩いて鉄道の存続を訴える「電車存続駅伝大会」を実施し、県がこの問題に結論を出すとしている十二月を前に結束を固めた。福井市内で開いた決起集会には約六百人が参加し、西川一誠副知事ら関係者に存続への思いを伝えた。



京福電鉄志比駅に集合し、電車存続をアピールする住民ら

沿線住民600人参加 西川副知事に最終バトン

駅伝大会は、勝山、永平寺、松岡、上志比の四市町村でスタート。松岡町志比の京福志比駅には「未来に残そうみんなの電車」などと記したのぼりを持った住民ら約四十人が午前八時三十分集合し、途中、人数を増やしながら、福井市内の東藤島駅まで約六キロを歩いた。

午前十一時ごろには、四コースを歩き終えた約六百人が福井市大手の中央公園に集まり、存続決起集会を開催。初めに、駅伝大会発起人代表の和田高枝・県議が「一度レールを外したら復線は絶対にあり得ない。高齢者や学生らの足を守るため力いっぱい存続を訴えよう」と一致団結を求め、沿線住民らも「にぎわう街づくりには鉄道が不可欠」「電車がなくなれば冬の通学には特に不安を感じる」などと存続への思いを述べた。

これに対し、西川副知事は「失道の子売こま費

平成13年11月18日 電車存続駅伝大会を実施

小舟渡駅から東藤島駅まで13駅を徒歩でバトンリレー(住民参加者 600名)

平成13年12月19日 県議会 条件付きで 京福存続

県議会、京福存続認める

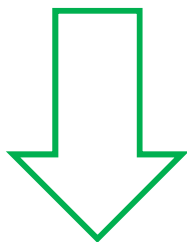
県の運営不参加条件に 知事、沿線市町村長と来月協議

京福越前線の存続問題で県議会は十九日、条件付きで路線の存続を認める結論を出した。議会側が求めた「存続条件」は、新しい鉄道の運営主体に県が加わらないなど、最大会派・県会自民党がまとめた独自の存続案に沿った内容。しかし、第二会派の県民連合などは、第三セクター鉄道への県の参加を主張するなど、議会内の意思が分かれた格好となっており、存続の最終決定は年越しとなった。栗田知事は来年一月に開く沿線市町村長との協議で、各会派の条件を検討する意向を示した。＝関連の面＝

この日の定例会県議会の主張を述べた。採択する県会自民党のほか、共
賛否では、過半数を占め、産党が「賛成」に回り、
最終日の本会議で、議会は京福線の存続を求める陳情、請願二件を賛成多数で採択した。

採択された請願、陳情では、①運転再開のための改造工事費、初期投資（運転開業費を除く）は全額、県が負担する②開業、運行は沿線市町村が責任を持つ③将来の運行を維持させる④これを委員報告の中で厚生警察常任委員会の松崎晃治委員長（県会自民）が求め、事実上の「付帯条件」となった。

この陳情、請願の取り扱いをめぐり賛成、反対討論では、県民連合の山根徳男代表が「採択条件は「よやくま」であった（県と沿線市町村の）合意を根拠から覆しかねない内容」と反対の意向を表明。県会自民党の関孝治幹事長は「鉄道を残してほしい自治体は住民と一緒に（鉄道維持の）努力をすべきだ」と賛成



平成14年1月22日 知事と沿線市町村長会議

県と沿線市町村が、越前本線と三国芦原線を第3セクター方式により存続させることについて、今後、各議会と協議することで合意

県民連合と公明党は、継 議会の総意は最終的に「存続案」を求めたが、県 採となった。

存続決定時の考え方(負担スキーム)と現在の2次スキーム

	当初スキーム (H14～H23)	2次スキーム (H24～H33)
福井県	・ 運行に必要な資産取得費 ・ 運転再開に必要な工事費 ・ 安全性確保に必要な設備投資	・ 一部未取得の資産取得費 ・ 早期の根本的対策が必要な安全設備投資
沿線自治体	・ 運転・開業資金 ・ 欠損補助 ・ 会社資本金の7割と取締役としての経営責任	・ 社会資本の維持に必要な経費の維持(線路と電路の維持修繕費) ・ 会社資本金の7割と取締役としての経営責任
会社	鉄道運行の継続	鉄道経営主体としての自立

京福線3セク

吉田郡一丸で 新会社を支援

住民ら組織設立

京福越前線を引き継ぐ第三セクターによる新鉄道会社を支えようと、吉田郡三町村の各種団体と住民が二十七日、資金面や運営面など多面的に新会社を支援する「吉田郡第三セクター電車サポート会」を設立した。設立総会では永平寺町開発センターで開かれ、参加した松岡、永平寺、上志比の三町村の住民は、これから一丸となって同線を守り抜くことを誓った。

総会では、サポート会設立を三町村に呼び掛けた和田高枝県議が「特に会員を募らずに住民みんながサポーターという気持ちでスタートしたい。これから電車を生かしたまちづくりをし、吉田郡を発展させたい」とあいさつした。

総会では、同会内に▽電車に親しんでもらうイ

ベントなどを考える企画部会▽出資金や寄付金を募る募集部会▽駅舎や駅名に関したアイデアを練る電車とまちづくり部会の三部会を設けることも示した。

最後に、参加者を代表して三人の住民が電車に対する自分の思いを発表した。このうち、松岡中三年の小出由香さんは

「電車はなくてはならないもの。一日もはやく運転を再開してほしい」と訴えた。



住民一丸となって新会社を支えることを誓った「吉田郡第三セクター電車サポート会」の設立総会＝永平寺町開発センターで

えちてつサポーターズクラブ 概要

H14.12 えちぜん鉄道沿線サポート団体連絡会議 設立

…京福電鉄線を「存続させる」機運を作るために組織された側面が強い

⇒ H 17.2 えちてつサポーターズクラブ 設立 （当初会員約600人）

…「電車に乗る」ことによるサポートという組織目標を再定義

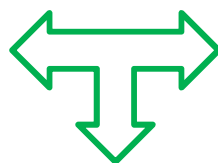
→ この目標を達成するために、以下の活動を行う

サポート団体

- ・会費による活動費の確保
- ・会員への情報提供体制の確立

市町村

- ・サポート団体との連携体制の確立
- ・えち鉄とともに会員向けの情報発信の実行



えちぜん鉄道

- ・サポート団体会員優待策の企画
- ・会員向け情報発信の企画
- ・名簿の整理



<現在の状況>

- ・会員数4,045人（H28）
- ・加盟店 109店舗（H29）

サポーターズ会員 運賃早見表

通常会員	普通旅客運賃	150円	190円	210円	230円	250円	270円	330円	390円	450円	520円
	割引運賃【1割引】	140円	180円	190円	210円	230円	250円	300円	360円	410円	470円
	普通旅客運賃	570円	620円	670円	720円	770円	810円	850円	900円	940円	1010円
	割引運賃【1割引】	520円	560円	610円	650円	700円	730円	770円	810円	850円	910円

ゴールド会員	普通旅客運賃	150円	190円	210円	230円	250円	270円	330円	390円	450円	520円
	割引運賃【2割引】	120円	160円	170円	190円	200円	220円	270円	320円	360円	420円
	普通旅客運賃	570円	620円	670円	720円	770円	810円	850円	900円	940円	1010円
	割引運賃【2割引】	460円	500円	540円	580円	620円	650円	680円	720円	760円	810円

こども会員	普通旅客運賃	80円	100円	110円	120円	130円	140円	170円	200円	230円	260円
	割引運賃【1割引】	80円	90円	100円	110円	120円	130円	160円	180円	210円	240円
	普通旅客運賃	290円	310円	340円	360円	390円	410円	430円	450円	470円	510円
	割引運賃【1割引】	270円	280円	310円	330円	360円	370円	390円	410円	430円	460円

NPO法人 ふくい路面電車とまちづくりの会＝ROBAの会 概要

H13.02 ROBAの会 発足

- ・路面電車の利便性向上⇒地域鉄道の利便性向上⇒広く公共交通の利便性向上
- ・路面電車のRO、バスのBA ⇒ ROBAの会

H16.04.01 NPO法人ROBAの発足

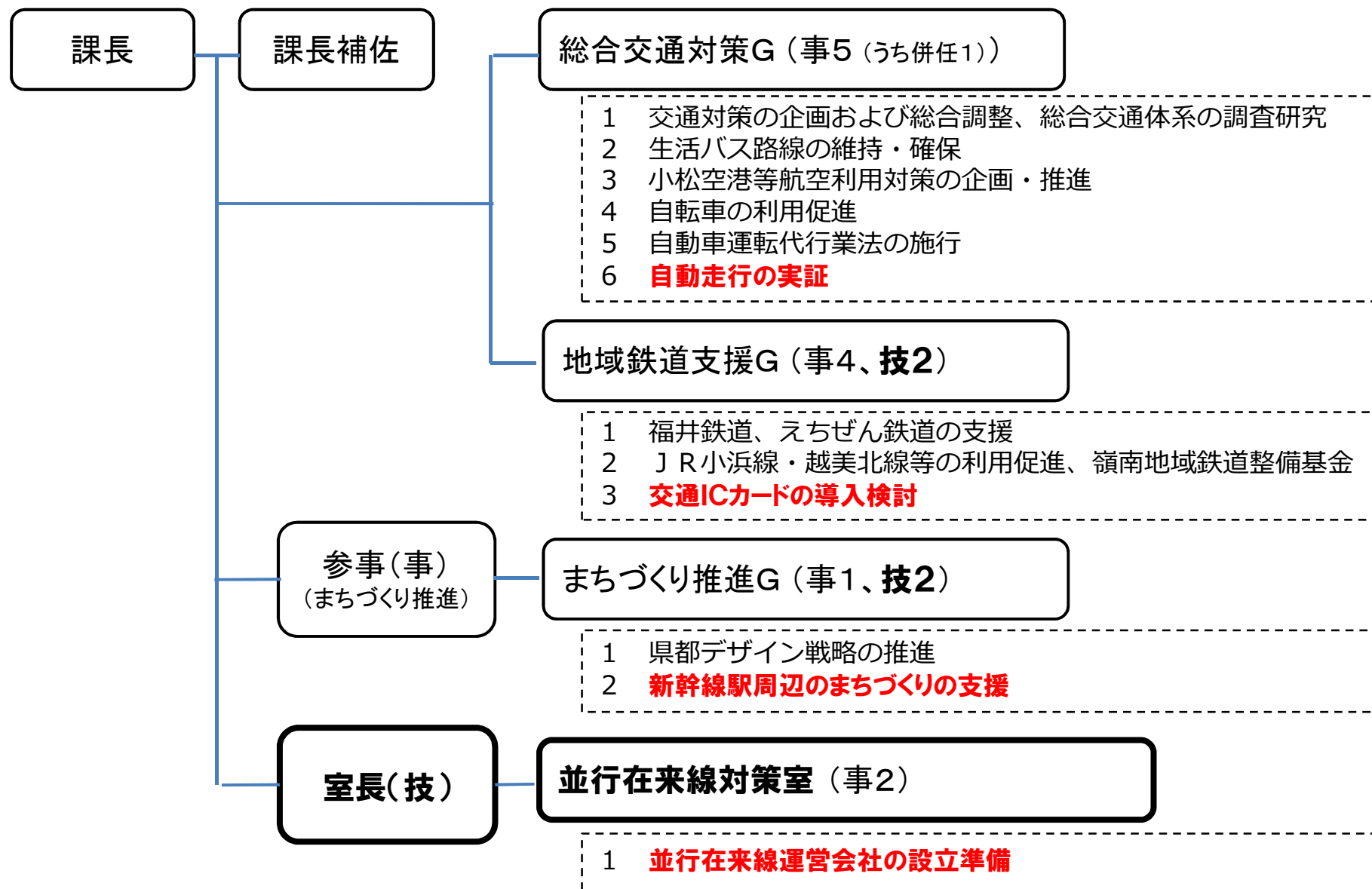
- ・ホ(歩行者)ジ(自転車)ロ(路面電車・鉄道)バ(バス)交通の推進
- ・2017年現在会員45名

ROBAの会の主な活動概要

- ・ふくいのりのりマップ(H15.4初版 現在H29年 14版発行 毎年改訂) 県全域のバス路線図
- ・ふくいりんりんマップ(H19年作成 H25年WEB版で改訂発行) 福井市の自転車利用地図
- ・啓発事業として路面電車サミットや各種講演会開催
ex) 全国路面電車サミット2008福井大会・中部地区路面電車サミット福井大会2013/2016
- ・カーフリーデー事業(2007年から連続10回開催)



福井県 総合政策部 交通まちづくり課組織図 (H29年度・課員20名)



えちぜん鉄道の概要(再生から平成28年3月まで)

～えちぜん鉄道株式会社～

営業路線延長 53.0km
(三国芦原線) 25.2km [鉄道区間]
(勝山永平寺線) 27.8km [鉄道区間]

使用車両 大型車両 21編成
低床車両 2編成



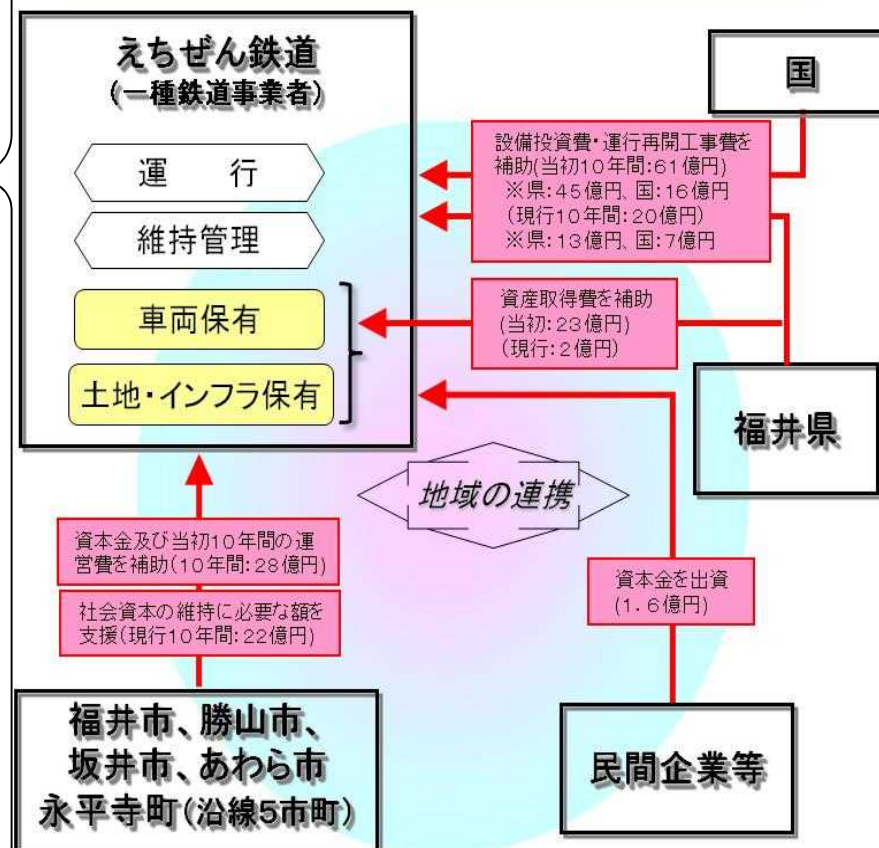
～ 沿革 ～

平成12年12月 京福電車 衝突事故
平成13年 6月 " 2回目の衝突事故
7月 国が京福電鉄に対し「事業改善命令」
12月 県議会で鉄道存続に関する請願・陳情採択
平成14年 1月 知事と沿線市町村長の間で第三セクター方式による鉄道存続を決定
9月 **えちぜん鉄道株式会社設立**
平成15年 2月 京福電鉄からえちぜん鉄道に事業譲渡
7月 勝山永平寺線(福井～永平寺口)、三国芦原線(福井口～西長田)部分開業
8月 三国芦原線 全線開通
10月 全線開通
平成17年 2月 サポータークラブ発足
平成19年 9月 めざましトレインによる早朝運行の開始
新駅設置(ハツ島駅、日華化学前)
平成21年 7月 65歳以上のサポーターズクラブ会員の割引拡大
平成24年 2月 **えちぜん鉄道活性化連携計画案を取りまとめ**
24年度以降の10年間の支援に合意
3月 連携計画を国に送付
10月 福井鉄道との乗継運賃割引の開始
平成26年 4月 きょうりゅう電車による特別運行開始
6月 えち鉄CAFÉの設置
平成27年 9月 EV車によるカーシェアの実施
新駅設置(まつもと町屋駅)
新幹線高架による仮線運行開始
平成28年 3月 相互乗り入れ開始

利用者推移
H15年度 1,382千人
H16年度 2,424千人
H17年度 2,918千人
H18年度 2,918千人
H19年度 3,071千人
H20年度 3,177千人
H21年度 3,109千人
H22年度 3,152千人
H23年度 3,233千人
H24年度 3,257千人
H25年度 3,297千人
H26年度 3,288千人
H27年度 3,459千人
H28年度 3,559千人

支援スキーム

(当初:10年間 平成14年度～23年度)
(現行:10年間 平成24年度～33年度)



《主要株主》 坂井市(17.4%) 勝山市(16.7%) 福井市(16.1%)
永平寺町(12.6%) あわら市(7.0%)



沿線自治体の支援による駅の変化 概要



勝山駅



三国港駅

大規模改装駅：三国港(坂井市)、勝山(勝山市)、永平寺口(永平寺町)

新設駅：八ツ島、日華化学前、まつもと町屋(全て福井市)

大規模改装駅①永平寺口駅旧駅舎＝永平寺町

- ▶ 旧駅舎を地域の「集いの場」として再生。利用、管理を地元の自治会が行っている。



地域の宝：勝山駅



えちぜん鉄道
勝山駅

2004年2月
登録有形文化財



改修を通して生まれ変わった！

勝山駅は100年の歴史を持つ**地域の宝**



大正時代の雰囲気を活かすCAFÉづくり

福井県民・勝山市民が魅力を再認識

勝山に新しい人の流れ・動きを生み出し
『集い』を創造する絶好のチャンス！

10時～17時：水曜日休

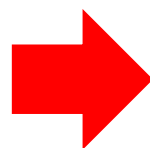


えちぜん鉄道P&R駐車場 設置状況(平成29年4月現在)

路線	駅名	設置年度	料 金	平成13年度 (京福時代)	平成29年度 (現在)	路線	駅名	設置年度	料 金	平成13年度 (京福時代)	平成29年度 (現在)
三国芦原線	中 角	H18	無 料	—	15	勝山永平寺線	越前新保	不明	無 料	9	9
	鷺塚針原	不明	無 料	23	23		観音町	H21	無 料	—	20
	太郎丸	H21	無 料	—	56		永平寺口	H15	無 料	—	29
	西長田	H15	無 料	—	15			H17	無 料	—	65
			H16	無 料	—		100	山 王	H10	無 料	25
	下兵庫	H10	無 料	10	10		越前竹原	H9	無 料	21	21
	大 関	H8	無 料	8	8		小舟渡	H15	無 料	—	15
	本 荘	不明	無 料	15	15		保 田	H9	無 料	15	15
	あわら湯のまち	H27	無 料	—	165		発 坂	H16	無 料	—	22
	水 居	S57	無 料	17	17		勝 山	H10	無 料	190	190
	三 国	H10	無 料	52	52		小 計			260	411
	三国港	H20	無 料	—	32						
	小 計				125	508					
						合 計				385	919

平成13年度（京福電鉄時代）

11カ所 385台



平成29年度（現在）

22カ所 919台

福井鉄道の概要

～福井鉄道株式会社～

営業路線延長 21.5km
(福武線) 鉄道区間 18.1km
軌道区間 3.4km

使用車両 大型車両 3編成
低床車両 15編成



～沿革～

平成18年 平成17年度決算で、鉄道部門において多額の減損損失を計上
平成19年 自主的経営再建を断念 沿線自治体に支援を要請
平成20年 県・沿線市、福井鉄道、名古屋鉄道、中部運輸局で構成される福井鉄道福武線協議会において支援スキームを策定
名古屋鉄道が経営から撤退、新しい体制へ移行

平成21年 1月 P & R 駐車場整備開始
2月 鉄道事業再構築実施計画策定 (国交大臣認定)
平成22年 3月 新駅設置 (スポーツ公園駅)
平成22年 4月 高齢者対象割引券の販売開始
11月 駅舎改修開始 (電停バリアフリー化)
平成23年 3月 新駅設置 (清明駅・泰澄の里駅)
平成24年10月 えちぜん鉄道との乗継運賃割引の開始
平成25年 3月 新型LRV F1000形 (FUKURAM) 運行開始
平成26年 4月 ドイツ製車両 レトラムの運行開始
路面軌道改修開始
平成28年 3月 相互乗り入れ開始
JR福井駅西口交通広場への延伸

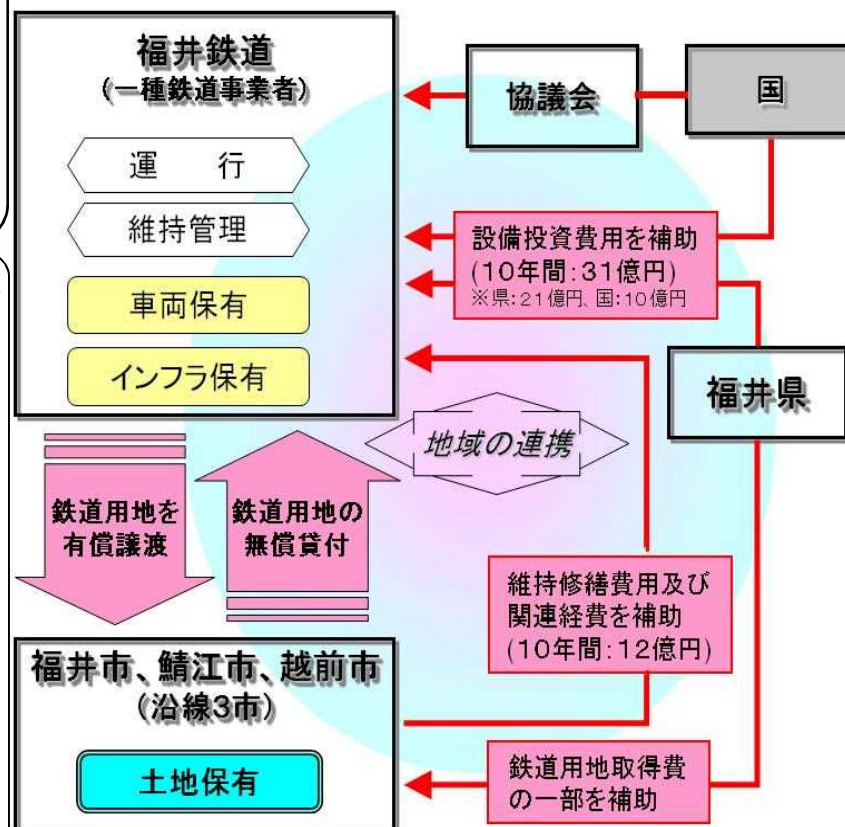
※ 平成27年度の利用者数は198万人
平成20年度以降増加傾向で推移している。

利用者推移

H17年度 1,631千人
H18年度 1,625千人
H19年度 1,611千人
H20年度 1,606千人
H21年度 1,640千人
H22年度 1,731千人
H23年度 1,759千人
H24年度 1,778千人
H25年度 1,901千人
H26年度 1,934千人
H27年度 1,983千人
H28年度 2,026千人

再構築事業実施スキーム

(計画期間:10年間 平成21年3月～30年3月)



《主要株主》 まちづくり福井(株)(6.76%) 鯖江商工会議所(6.76%)
武生商工会議所(5.41%) 福井鉄道福武線サポート
団体協議会(福井市・鯖江市・越前市 各4.05%)



レトラム



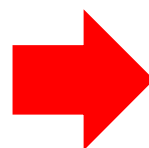
フクラム

福井鉄道P&R駐車場 設置状況(平成29年4月現在)

駅名	設置年度	料 金	平成19年度 (再構築前)	平成29年度 (現在)
北 府	H22	無 料	—	63
スポーツ公園	H22	〃	—	13
サンドーム西	H21	〃	—	10
水 落	H16	〃	80	80
神 明	H21	定期券購入者	—	15
鳥 羽 中	H23	無 料	—	5
三十八社	H23	〃	—	11
浅 水	H16	有 料	45	42
ハーモニーホール	H20	定期・回数券購入者	—	38
江 端	H23	無 料	—	18
ベル前(定期券・回数券)	H21	商品券3,000円/月	—	50
花 堂	H23	無 料	—	12
合 計			125	357

平成19年度(鉄道事業再構築事業前)

2カ所 125台



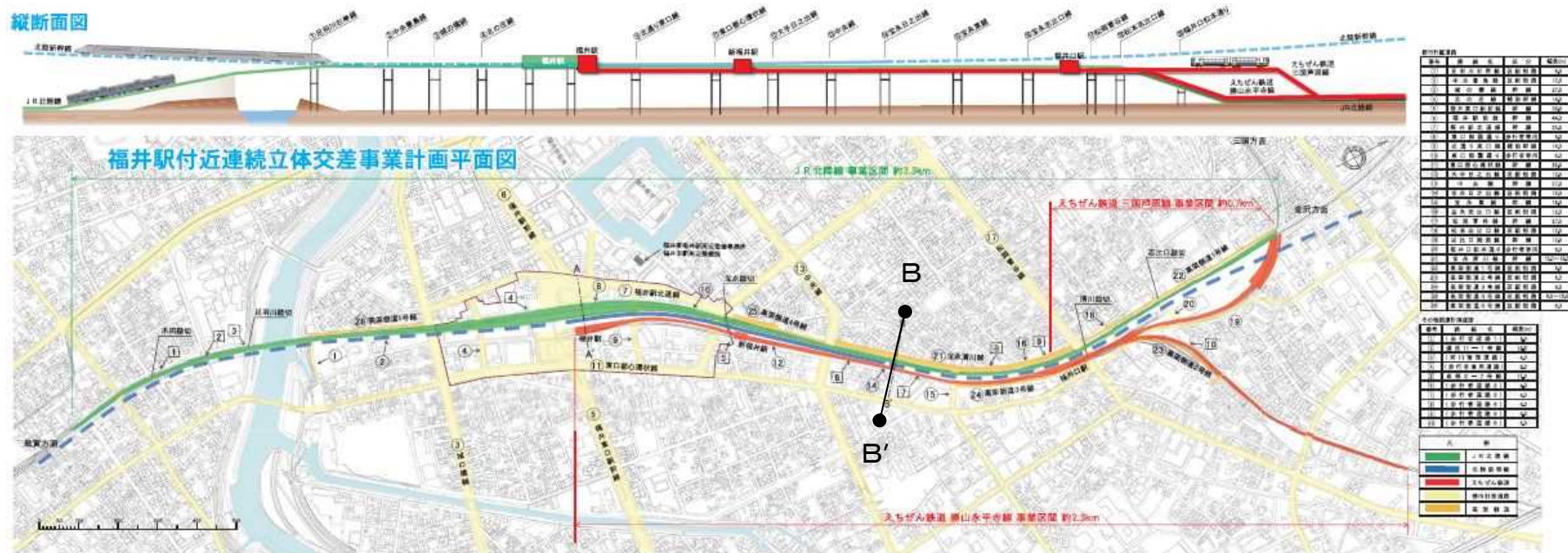
平成29年度(現在)

12カ所 357台

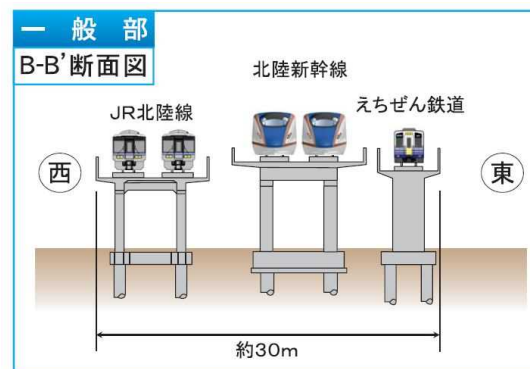
近年の福井駅周辺におけるプロジェクトと地域鉄道沿線の状況



① 福井駅周辺連続立体交差事業



えちぜん鉄道福井駅 (イメージ図)



断面図



※平成27年9月27日から、えちぜん鉄道高架工事の間の仮線として、先行整備の新幹線高架を利用

⑤ 新駅設置（まつもと町屋駅）

- ・えちぜん鉄道三国芦原線の西別院駅と福井口駅の間に、
新駅「まつもと町屋駅」を設置（平成27年9月27日開業）



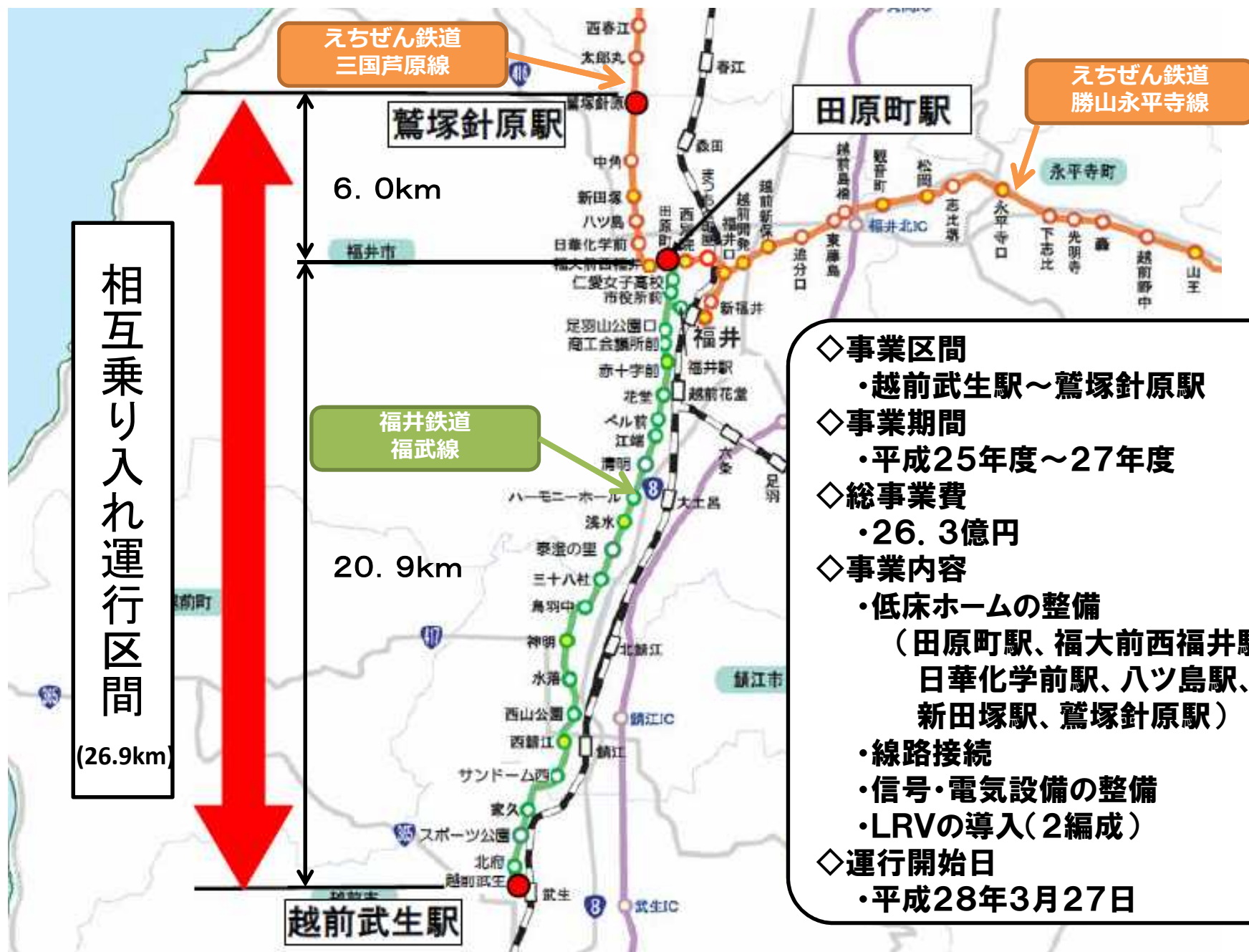
まつもと町屋駅

利用者数

開業後1年実績（1年） （H27. 10月～H28. 9月）	約27, 000人
当初計画（1年）	約15, 000人



② 福井鉄道・えちぜん鉄道相互乗り入れ【事業の概要】



② 相互乗り入れが実現するまで

福井県知事のマニフェスト(福井元気宣言)

期	年(期間)	記 述
1	平成15年春 (平成15 ～18年度)	8 福井は列島のまん中 一より近くにより便利に ○えちぜん鉄道の円滑な運航と活性化の推進、福井鉄道福武線との連絡 「えちぜん鉄道」の運行が円滑に進むよう努力するとともに、再開後の乗る運動、にぎわい創出、パークアンドライドの促進を通じて活性化に努力 また、「 福井鉄道福武線 」との 相互乗り入れを実施
2	平成19年春 (平成19 ～22年度)	8 高速交通時代のにぎわい交流まちづくり ◆モビリティ・マネジメント(交通手段の最適利用)の推進 ○電車・バスの生活利便性の向上 ・ えちぜん鉄道と福井鉄道の相互乗り入れの実現 と利活用の促進。高頻度運行化
3	平成23年春 (平成23 ～26年度)	9 県土に活気の高速交通時代 ◆次の50年の都市改造 ○県都のデザイン戦略 ・えちぜん鉄道の高架化、 えちぜん鉄道・福井鉄道の相互乗り入れを実現。 LRT化(次世代型路面電車システム)
4	平成27年春 (平成27 ～30年度)	9 美しい県土、楽しく便利なまちの形成 ◆電車・バス・自転車の利活用拡大 ○福鉄・えち鉄の高機能化 ・福井鉄道の駅前線延伸・短絡線整備、えちぜん鉄道の高架化を進め、乗り継ぎ改善

② 相互乗り入れ事業検討会議の開催

相互乗り入れを進めるため、両鉄道事業者に加え、沿線市町や道路管理者、警察など関係者の意見を調整する場として、県が「相互乗り入れに関する事業検討会議」を開催（第1回 平成22年5月27日）

平成25年2月7日に開催した第6回会議で、平成25年度から設計やホーム改修等の工事を行い、平成27年度から越前武生駅と鷺塚針原駅の間で運行開始を目指すことを合意

【構成員】

国土交通省中部運輸局
国土交通省近畿地方整備局
福井市、鯖江市、越前市、
勝山市、あわら市、坂井市、永平寺町
福井鉄道株、えちぜん鉄道株、
福井県警察本部、 福井県

【経過】

事業検討会議（第1回）(H22.5.27)
事業検討会議（第2回）(H22.8.12)
事業検討会議（第3回）(H22.11.29)
事業検討会議（第4回）(H23.6.14)
事業検討会議（第5回）(H24.11.27)
事業検討会議（第6回）(H25.2.7)



第6回 事業検討会議の様子 (H25.2.7)

② 相互乗り入れの実施スケジュール

相互乗り入れ事業実施工程

事業主体	工事内容等		施工時期			
			平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	
福井鉄道	田原町駅	線路工事、踏切工事、 電気工事（信号機・ATS 整備等）、 ホーム・上屋工事				
えちぜん鉄道	田原町駅	低床ホーム整備				
	福大前 西福井駅					
	日華化学前駅					
	ハツ島駅					
	新田塚駅					
	鷺塚針原駅					
	低床車両の導入（2 編成）					

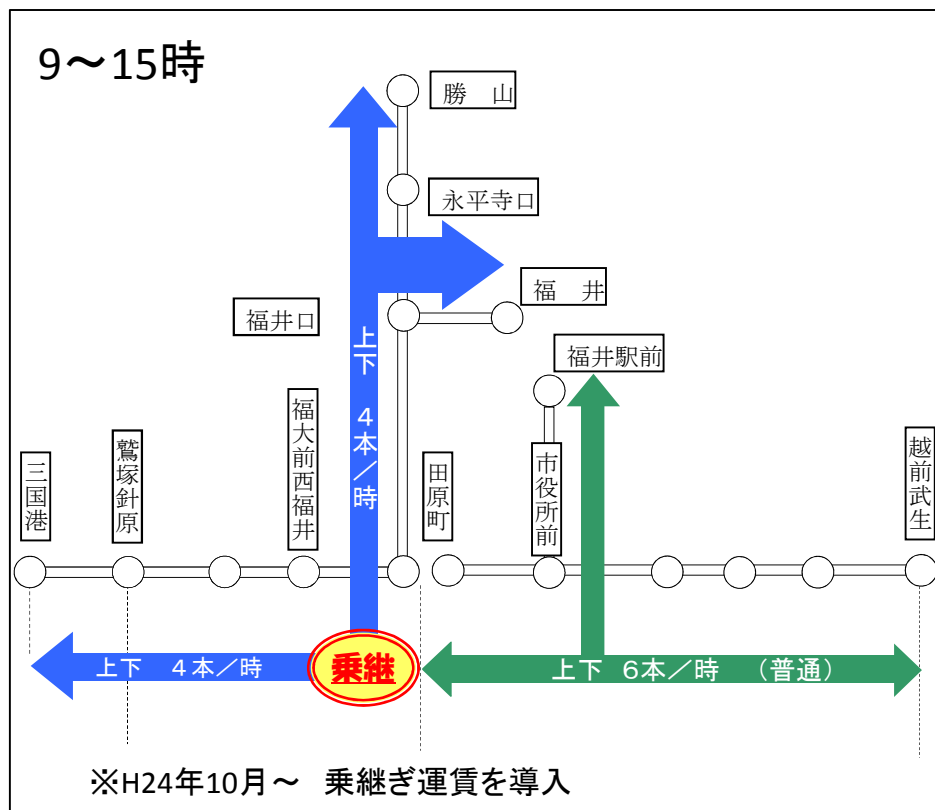
相互乗り入れ開始
H28.3.27

相互乗り入れ開始
H28.3.27

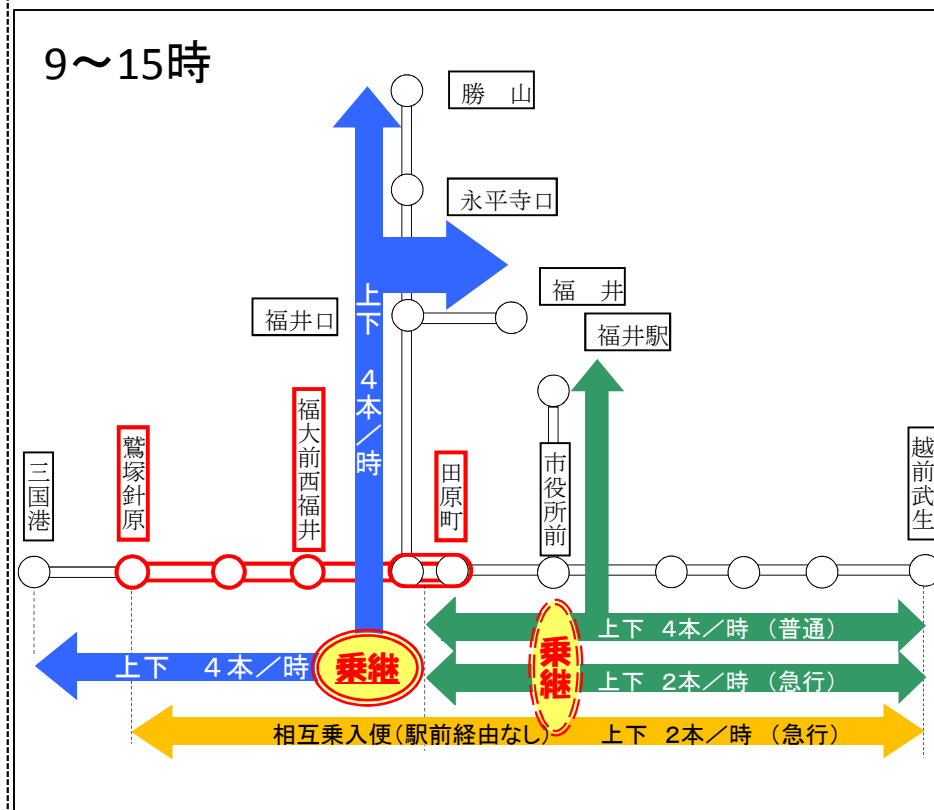
	実施工程
	当初計画

② 運行パターン

相互乗り入れ開始前(H28.3月26日まで)



相互乗り入れ開始後



相互乗り入れ便を、毎時2本(上下)運行

福井鉄道	: 毎時 6本(上下)	→ 毎時 8本(上下)
えちぜん鉄道	: 毎時 4本(上下)	→ 毎時 6本(上下)

② 相互乗り入れの効果

福井鉄道・えちぜん鉄道相互乗り入れの効果（平成28年3月27日時点）



〔運行時間の短縮〕

越前武生 ⇄ 鷺塚針原駅
約80分 → 約60分（約20分短縮）

〔運行本数の増〕（9～15時）

福井鉄道区間
6本/時 → 8本/時（2便/時増）
えちぜん鉄道区間
4本/時 → 6本/時（2便/時増）

通学利用者の利便性向上

- ① 丹南方面から福井商業高校、啓新高校、福井大学等に通学する学生の乗り継ぎ解消
- ② 福井市北部から仁愛女子高校等に通学する学生の乗り継ぎ解消

通院利用者の利便性向上

- ① 丹南方面から病院に通院する高齢者の乗り継ぎ解消
- ② 福井市北部から赤十字病院に通院する高齢者の乗り継ぎ解消

通勤利用者の利便性向上

- ① 福井市北部から福井市中心部への通勤ニーズの掘り起こし

② 相互乗り入れに使用する車両

福井鉄道車両



F1001号

F1000形 (定員155名)



F1002号

F1000形 (定員155名)



F1003号

F1000形 (定員155名)



770形 (定員90名)

えちぜん鉄道車両



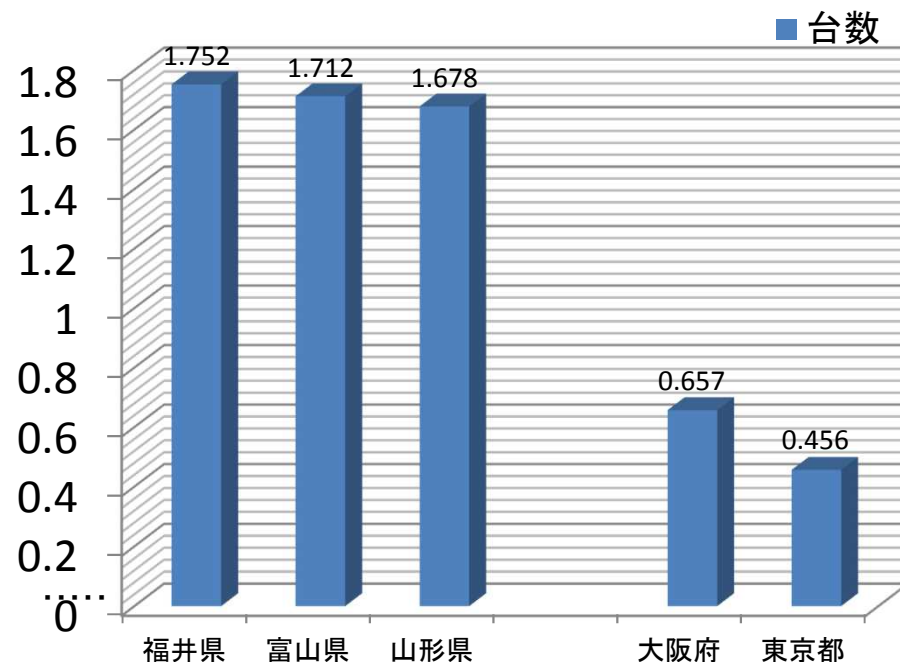
L形 (定員100名)

相互乗り入れの効果(環境面)

- ・福井県は全国トップのクルマ依存社会
- ・相互乗り入れ事業により鉄道の利便性を高め、クルマから公共交通への利用転換につなげる
- ・公共交通の利用促進は、CO₂削減など地球温暖化対策にも貢献



○ 自家用乗用車の世帯当たり普及台数



出典: (一社)自動車検査登録情報協会 H27.3末

② えちぜん鉄道が新たに導入したLRV

- ・環境省の、二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金
（低炭素化に向けた公共交通利用転換事業）
を活用し、低床車両を2編成導入

※自動車から公共交通への利用転換により、二酸化炭素の排出抑制を図るもの

愛称 「ki-bo」 （キーボ）



L形（定員100名）
全長18.7m 最高速度70km/h

えちぜん鉄道株式会社

② 田原町駅の整備

田原町駅

- ・えちぜん鉄道三国芦原線専用ホーム(高床)、
福井鉄道福武線専用ホーム(低床)、
相互乗り入れ専用ホーム(低床)の整備
- ・両社線路の接続、信号保安システムの整備



整備後

中央が相互乗り入れ専用線
(LRVが停車している線)



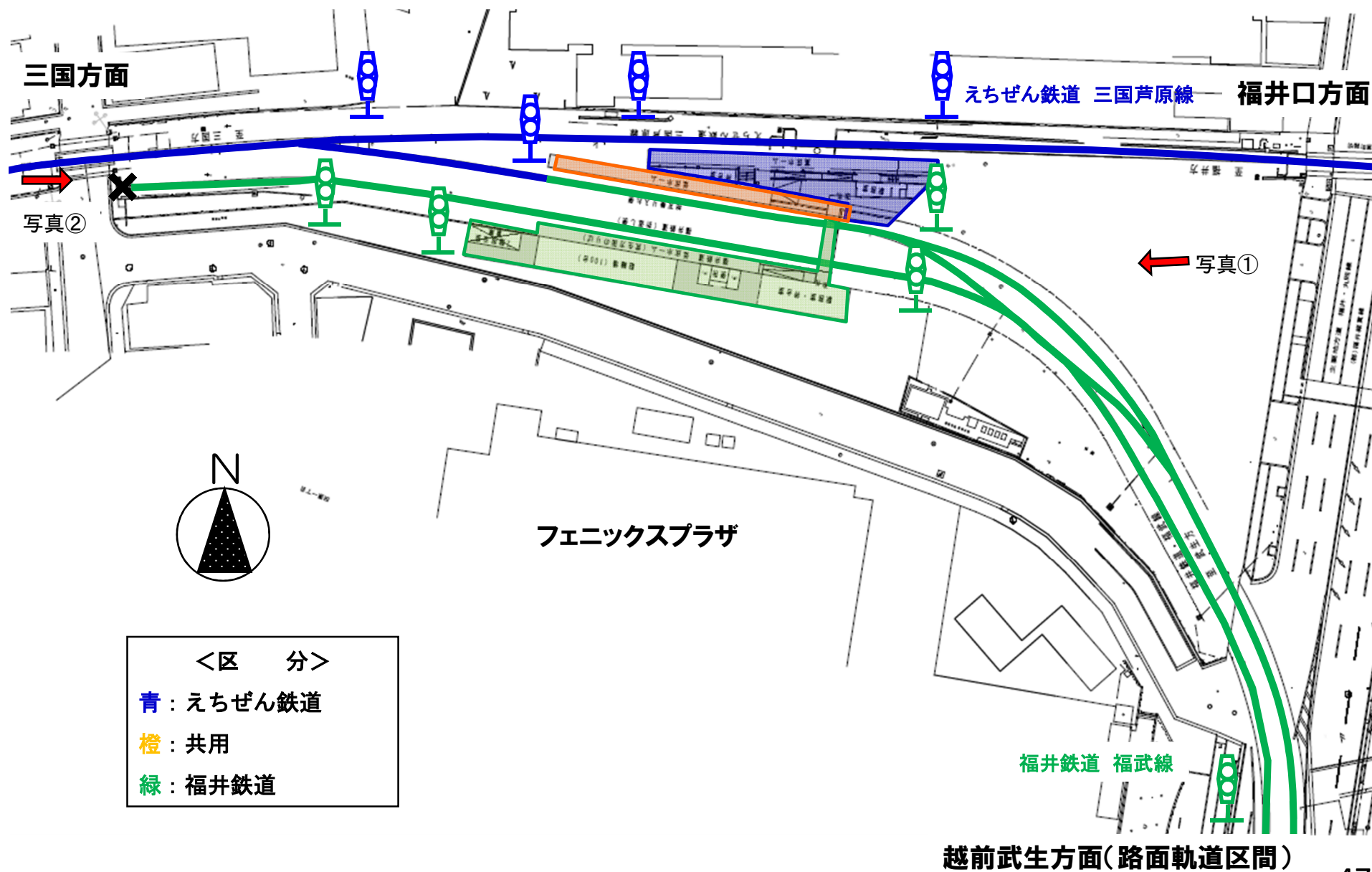
線路の接続部分

左 えちぜん鉄道 三国芦原線
中央 相互乗り入れ専用線
右 福井鉄道 福武線(留置線)

② 田原町駅の状況（事業開始前）



② 田原町駅の整備【平面図】



② 低床ホームの整備 【福大前西福井駅】

福大前西福井駅

- ・既設の高床ホームの三国方側を低床ホームに改修



整備前



整備後

〔 奥が高床ホーム、手前は低床ホーム 〕

② 低床ホームの整備【日華化学前駅】

日華化学前駅 (H19新設)

- ・高床ホームと低床ホームを整備(単線区間)



整備前



整備後

〔奥が高床ホーム、手前は低床ホーム〕

② 低床ホームの整備【ハツ島駅】

ハツ島駅 (H19新設)

- ・高床ホームと低床ホームを整備(単線区間)



整備前



整備後

〔奥が低床ホーム、手前は高床ホーム〕

② 低床ホームの整備 【新田塚駅】

新田塚駅

- ・両側に低床ホームを整備
(島式の高床ホームは存置)



整備前



整備後

② 低床ホームの整備【鷺塚針原駅】

鷺塚針原駅

- ・低床車専用線(相直便の折返し線)の整備
- ・低床ホームの整備
- ・信号保安施設の整備



整備前



整備後

相直便の折返し線を新設

② 定時性の確保

① 右折車両分離方式信号の導入

- ・自動車と列車の接触を避けるため、軌道信号の進現示と、自動車信号の右折現示を分離

※信号は「赤」、「黄」、「直左」または「右」の矢印表示のみ

② 電車PTPSの導入

- ・列車接近に合わせ、青の延長もしくは赤の短縮を行うPTPS(公共車両優先システム)を設置し、列車の信号待ち時間を短縮
- ・バスと電車のPTPSの同一区間での運用は全国初



電車専用信号と右折車両分離方式信号

③ 電停の改良(広幅ホーム)

- ・ホーム幅が約0.8mと狭く、乗降に時間を要していたため、幅を2mに広げるによりラッシュ時の乗降時間を短縮



仁愛女子校電停 (従来)



仁愛女子校電停 (改良後)

② 相互乗り入れ開業式典

平成28年3月27日、田原町駅で西川知事、沿線市町の首長をはじめ約100人の来賓の出席のもと盛大に開業式典が行われた



式典中、田原町駅に入線する
相互乗り入れ列車



テープカット
※両社長が固い握手

② 相互乗り入れH28.03.27運行開始直後

H28.04.08 福井新聞



えち鉄、福鉄直通10日

ファン殺到 発着乱れ

えちぜん鉄道三国岩原線と福井鉄道福武線の相互乗り入れ便の運行開始から10日たった。田原町駅(福井市)での乗り換えがいたらない快速や、えち鉄の次世代型低床車両「キーホ」のデビューが注目を集め、沿線住民だけでなく、全国各地から鉄道ファンが殺到している。ただ乗客が多く、福井市中心部の路面停留場での運賃受け取りに時間が掛かり、10分以上の遅れが発生するなどダイヤに乱れが出た。定時性確保が大きな課題になっている。

(大谷貴洋)

ワンマン運行 運賃受け取りに時間

遅れ10分超も

- ・共通一日フリー切符の売り上げは前年度比**4倍**(4/2、4/3)
- ・越前武生発 約7割で3分以上の遅れ
(3月28日～4月3日の7日間)
- ・4月2日(土)には花見で殺到したこともあり、
最大で**18分15秒**(普通便)の遅れとなってしまった。
- ・大半が単線区間で駅で待機して行き違うしかないため、1本が大幅に遅れると
ダイヤ全体に影響し、**相互直通運転を取りやめる便もあった。**

② 定時制の確保(相互乗り入れ運行開始後) 1

・相互乗り入れ課題検討会議(平成28年度:13回開催)

相互乗り入れ開始に伴い発生した課題を検討する会議を平成28年度に13回開催している。出席者は福井鉄道、えちぜん鉄道、福井市、福井県。

・福井鉄道・えちぜん鉄道連絡会議

(平成29年度:2回開催)

相互乗り入れ課題検討会議の参加者に越前市、鯖江市、坂井市、あわら市、永平寺町、勝山市をオブザーバーとして加え、名称も平成29年度より変更して開催している。これまでに2回開催している。



・ラッシュ時の無人駅への駅員配置(平成28年4月11日～)

ラッシュ時に車掌が運賃の収受を行うこと、満員電車時にドアセンサーが反応してしまうことによる遅延が発生していた。そのため、無人駅に駅員を配置し、スムーズな乗降を行えるようにした。

・田原町駅への駅員配置(平成28年5月～)

・接触防止チラシの配布(平成28年度:3回、平成29年度:1回)

ドライバーに対し、鉄道事業者、県、市により軌道敷内への侵入をしないように啓発チラシを配布している。平成28年度は7/21、9/21、12/12で3回、平成29年度は4/6に一回配布している。



② 定時性の確保(相互乗り入れ運行開始後) 2

・走行空間の拡幅(平成28年7月19日、11月29日)

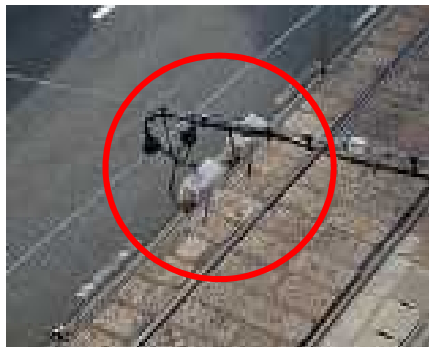
右折自動車が軌道敷沿いぎりぎりに停車すると、路面電車がドアミラーに触れる恐れがあったため、軌道敷沿いの右折レーンの車道幅を狭め、その分だけ路面電車の走行空間に余裕を持たせた。

7/19に幸橋より北側6ヶ所の交差点、11/29には幸橋より南側5ヶ所の交差点を改良した。

・PTPSの設定を調整(商工会議所前)

・交通信号との連動制御の改良

新木田交差点のトロリーコンダクターの位置を変更することで、電車の侵入を早めに交通信号に反映させ、待ち時間を短縮した。



信号の影響を受けない便の割合

18.9% → 33.4%
(H28.05.08-05.21) → (H29.05.18-05.31)

・ダイヤ改正(平成29年3月25日)

福井鉄道は、電停間のダイヤ上の時間を実際の列車運行時間に合わせ、再度設定した。

路面電車 走行空間広く



従来の白線
新しい白線、路面電車の走行空間が拡大した

福井鉄道沿線の路面電車と信号待ちする自動車間の接触するのを未然に防ぎ、県は福井市中心部の国道(通称フェニックス通り)にある交差点6ヶ所の白線を改良した。軌道敷沿いの右折レーンの車道幅を狭め、その分だけ路面電車の走行空間に余裕を持たせた。狭れた道路スペースを有効活用し、交差点の円滑な交通処理を図ると、路面電車の定時運行と車載ドラッグの双方の安全確保につなげる。(大谷雄作)

県、右折レーンを改良

福井・フェニックス通り主要交差点

H28.07.22 福井新聞

② 利用者増のための取り組み(相互乗り入れ運行開始後) 1

- ・ki-boの時刻表を作成(えちぜん鉄道)
- ・フクラムの運行時間をTwitterで発信(福井鉄道)
- ・福井鉄道パンフレット「私と街とふくてつと。」

相互乗り入れに関する記述の追加(平成28年9月23日)

福井鉄道の車両、駅および駅周辺の観光情報をPRするパンフレット「私と街とふくてつと。」に相互乗り入れに関する記述を追加した。



- ・共通フリーきっぷ案内チラシ 2,400枚配布(平成28年9月23日)
- ・ホテルランチ券付・スイーツ券付一日フリー乗車券
(平成28年12月1日～)

福井鉄道が福井駅近くのホテル「ユアーズホテルフクイ」と協力して、ランチ券・スイーツ券付きの福井鉄道一日フリー乗車券の販売を平成28年12月1日より開始した。



② 利用者増のための取り組み(相互乗り入れ運行開始後) 2

・ふくい交通フェスタ(平成29年3月25日)

福井県は福井鉄道・えちぜん鉄道の相互乗り入れおよび福井鉄道駅前延伸の1周年を機に県内交通体系を考える機会として、「ふくい交通フェスタ」を開催した。

えちぜん鉄道のki-boが初めて福井鉄道福井駅に乗り入れた。



・電車・バス利用者限定割引クーポン『ノリトク』(平成29年3月25日～)

えちぜん鉄道、京福バス、スマイルバス、福井鉄道を利用して福井駅前に来た顧客に対し、SEIBU、ハピリンモールなどの協賛店が割引サービスを実施。

・北陸新幹線を意識したダイヤ改正(平成29年3月25日～)

福井鉄道は始発の普通電車を22分早め、JRの朝特急「ダイナスター」(福井～金沢)に接続している。



・福井鉄道バス一日フリー券(平成29年3月25日～)

福井鉄道の路線バス全線で利用可能な休日バス・フリーきっぷの販売を平成29年3月25日に開始した。



・駅ナンバリング、路線別カラーリングの導入(平成29年3月25日～)

外国人にも利用しやすく、また行先を案内しやすくするため、平成29年3月25日全ての駅に福井鉄道、えちぜん鉄道がナンバリングおよび路線別のカラーリングを行った。

② 利用者増のための取り組み(相互乗り入れ運行開始後) 3

・一部駅の駅名変更(平成29年3月25日)

えちぜん鉄道は平成29年3月25日太郎丸駅を「太郎丸エンゼルランド」、西春江駅を「西春江ハートピア」に、西長田駅を「西長田ゆりの里」に、下兵庫駅を「下兵庫こうふく」にそれぞれ変更した。

・公共交通利用促進チラシの作成(平成29年3月号、4月号)

福井県で公共交通機関の利用を促進するチラシを作成し、地元情報誌 月刊URALA平成29年3月号、平成29年4月号に掲載した。

・春夏秋遊バス(平成29年4月1日～)

福井鉄道は平成29年4月1日より、休日にツリーピクニックアドベンチャー いけだや越前そばの里、越前和紙の里などの観光施設に向かうバス路線の運行を開始した。

利用者は停車する施設で割引などの特典を受けることができる。

・イベント時の積極的電車運行(平成29年1月1日～)

福井鉄道は、これまでイベントがあると運休を行ってきたが、軌道敷付近でイベントを実施する際の実施要領を作成し、利用客の拡大のため、安全に配慮しながら、電車を運行するように努めている。平成29年6月3日、6月4日には「花花フェス」を電車を通して行った。



② 利用者増のための取り組み(相互乗り入れ運行開始後) 4



福井鉄道線

@fukutetsu_info

6月7日(水)のF1002(ブルー)運転時刻は次のとおりです。

越前武生発 7時29分、9時55分、
12時55分、15時55分

田原町発 8時40分、11時24分、
14時24分、17時24分



10時

- ・えちぜん鉄道「ki-bo」の運行時刻表の作成
- ・福井鉄道「FUKURAM」の運行時間をTwitterで発信

② 相互乗り入れ運行開始後の利用状況

相互乗り入れ開始後、1年間の利用者

- ・一般利用者は、前年同時期に比べ約2.8倍
- ・土日限定の「福井鉄道・えちぜん鉄道共通1日フリーきっぷ」利用者は約1.6倍

期 間	一般利用者 〔片道きっぷ、往復きっぷ、 回数券、定期券〕	福井鉄道・えちぜん鉄道 共通1日フリーきっぷ購入者
平成28年度 28年4月～29年3月	約124,300人	約8,300人
【前年度】 27年4月～28年3月	約43,700人	約5,400人

(きっぷの売上枚数から推計した数値)

※平成28年度の福井鉄道・えちぜん鉄道(全線)の利用者数

福井鉄道	約203万人	(前年比 2.1%増(+4万2千人))
えちぜん鉄道	約356万人	(前年比 2.9%増(+9万9千人))

福井の地域鉄道を支援するチームふくいの総出演の『みんてつ』冬号

Vol. 60 | WINTER 2017 冬号

日本民営鉄道協会広報委員会による
広報誌「みんてつ Vol. 60」に

『地方鉄道による相互直通運転への挑戦』

と題し、特集されています。

【詳細は日本民鉄協HP参照】



特集 地方鉄道による相互直通運転への挑戦
[えちぜん鉄道・福井鉄道の取り組み]

④ 駅前線延伸

- ・JR福井駅から離れた位置にあった駅前電停を、福井駅西口広場の整備にあわせて143m延伸、平成28年3月27日の相互乗り入れと同時に運用を開始した

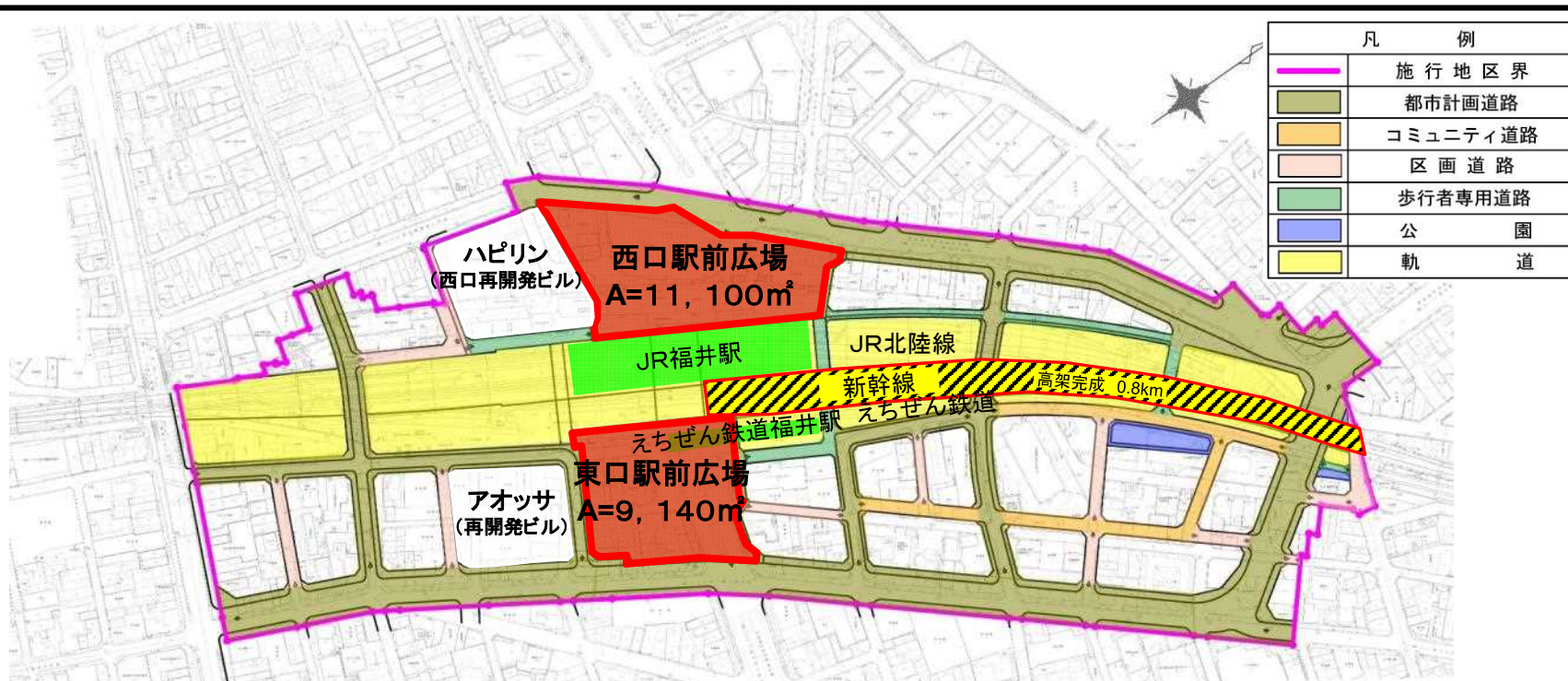


福井駅西口広場に延伸された福鉄福井駅
※停車している車両は福井鉄道のレトラム



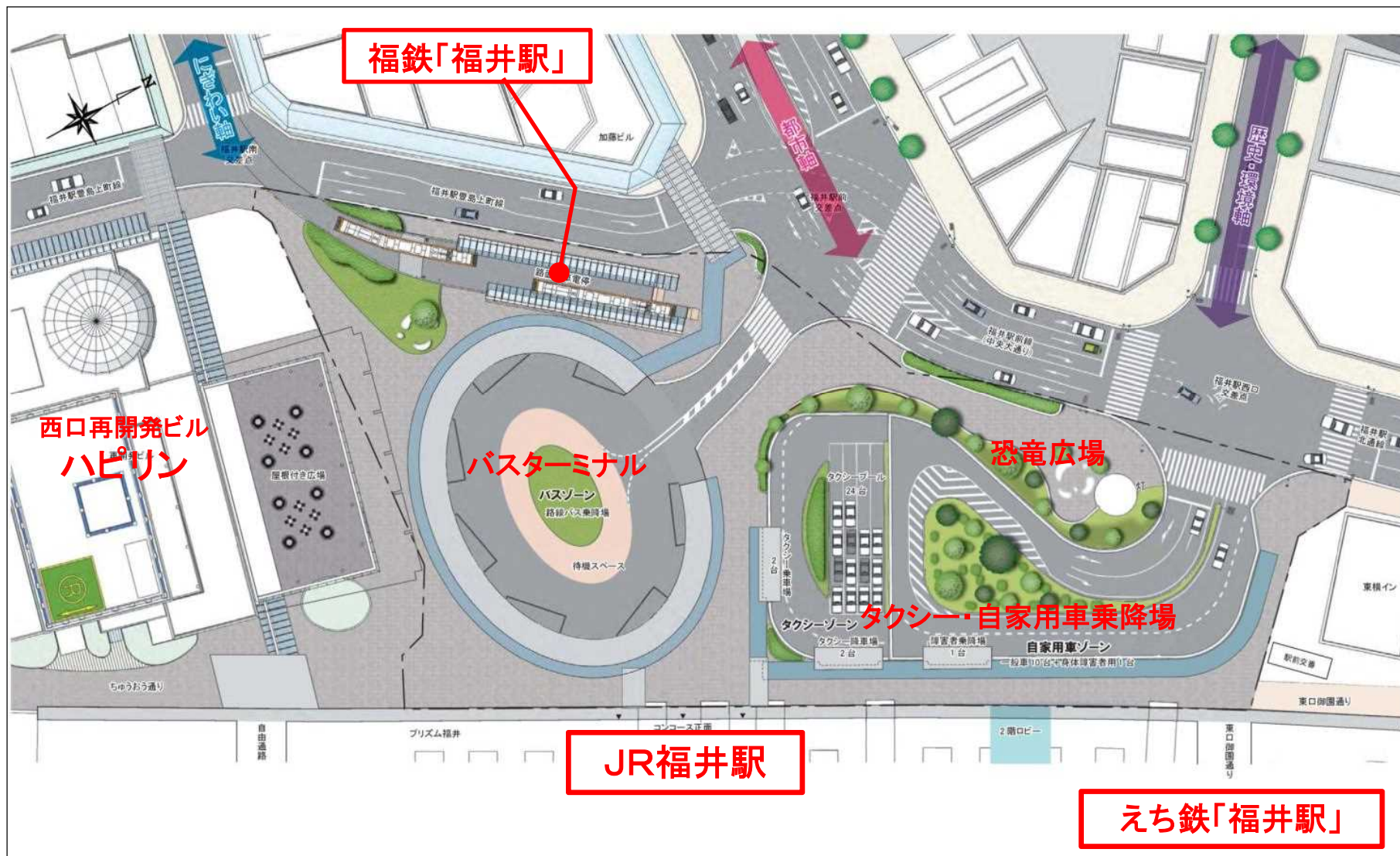
駅前線の福井駅西口広場への延伸
(電停移設)

⑦ 福井駅周辺土地区画整理事業



- (1) 事業名 福井都市計画事業 福井駅周辺土地区画整理事業
- (2) 事業主体 福井市
- (3) 事業期間 平成4年度 ～ 平成30年度 (平成27年度末進捗 約92%)
- (4) 施行面積 16.6ha
- (5) 総事業費 456億円
- (6) 事業目的 新幹線整備、在来鉄道高架化と併せて駅周辺市街地の抜本的再整備を行ない、東西市街地の一体的な高度利用、都市機能の高度化を推進し、県都の玄関口にふさわしい活力と魅力ある都市拠点の形成を図る。
- (7) 公共用地 施行前 4.5ha (27.6%) → 施行後 7.6ha (45.6%)

⑧ 福井駅西口広場の整備（福井駅周辺土地区画整理事業）



- ・ バスターミナルを中央大通りから西口広場に移転し、乗り換えの利便性を高める
- ・ 方面、乗客数を考慮し 6 台分の乗り場に路線を配置 + 1 台分の降車場 + 3 台分の待機場
- ・ 乗り場には最新式のバスロケーションシステムを導入

恐竜広場



⑦ 福井駅東口広場の整備（福井駅周辺土地区画整理事業）

平成9年頃撮影

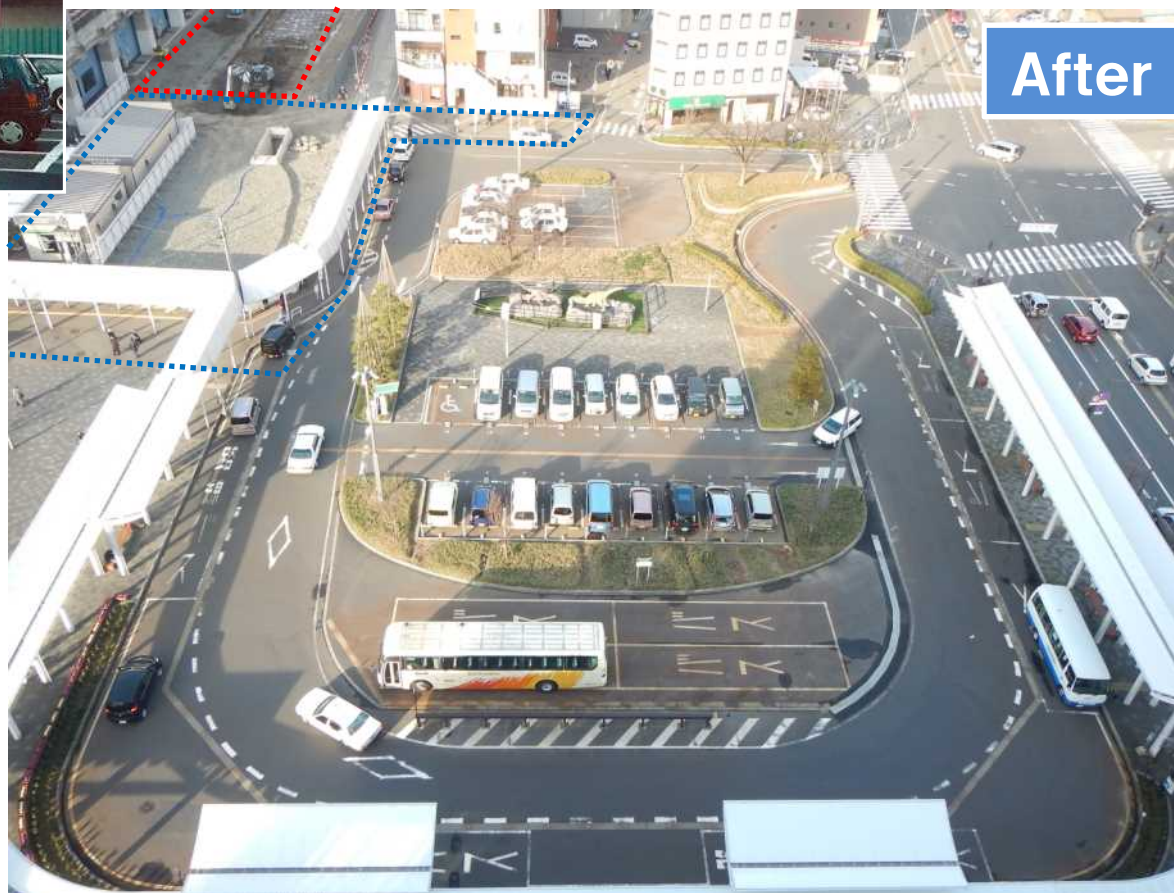
Before



区画整理前 広場面積約3,900m²



After



平成28年2月下旬撮影

区画整理後 広場面積約9,140m²

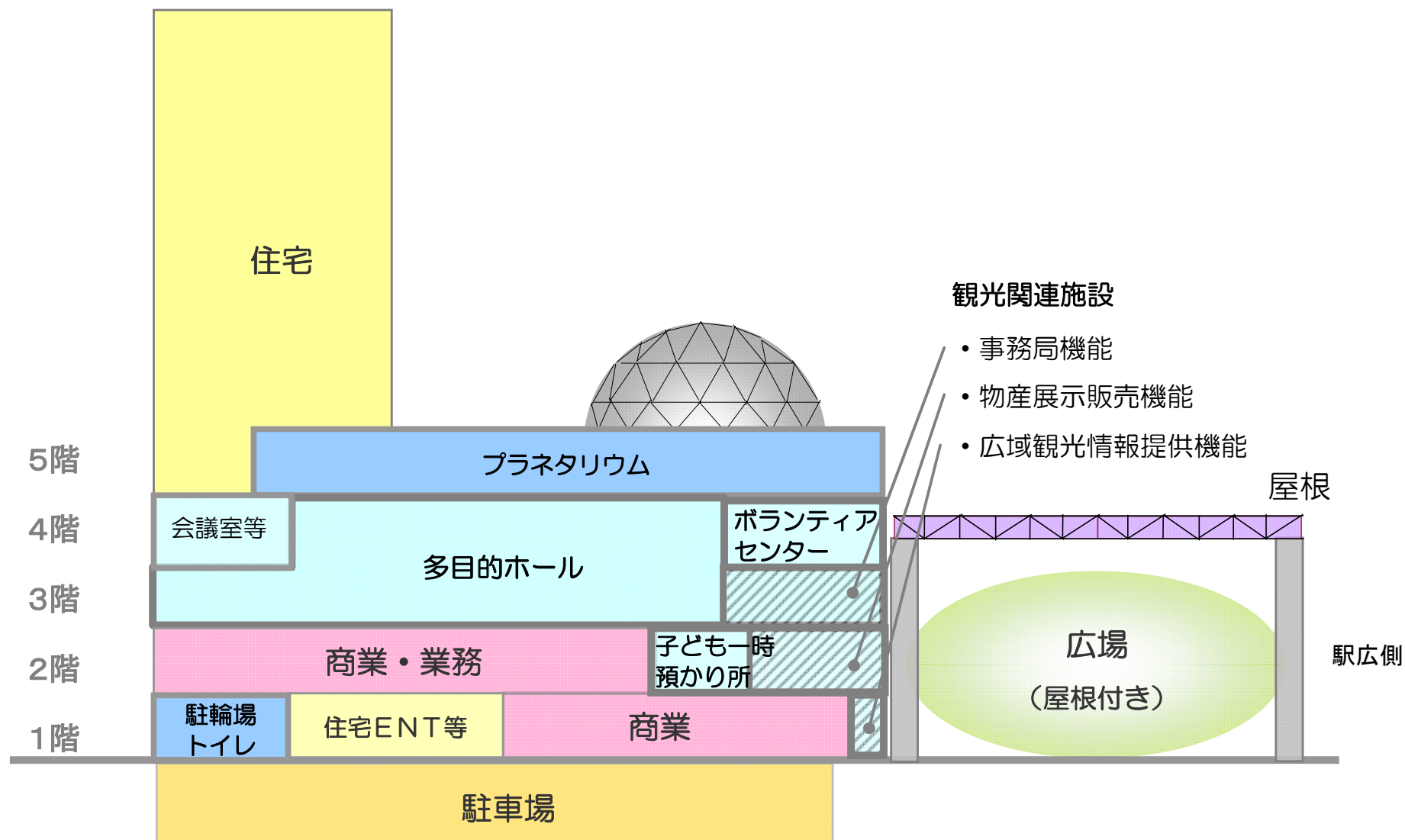
⑧ ハピリン(福井駅西口再開発)

- (1) 事業名 福井駅西口中央地区
第一種市街地再開発事業
- (2) 事業主体 福井駅西口中央地区市街地再
開発組合
- (3) 事業期間 平成24年度
～ 平成27年度
- (4) 施行面積 0.7ha
- (5) 総事業費 137億円
- (6) 事業目的 県都の玄関口にふさわしい活
力と魅力ある都市拠点の形成
および中心市街地の活性化

敷地面積	5,554.06㎡
建築面積	4,748.56㎡
延床面積	85.5%
容積対象床面積	35,121.75㎡
容積率	26,189.11㎡
構造・階数	471.5%
	鉄骨鉄筋コンクリート造
	鉄骨造、鉄筋コンクリート造
	地上21階 地下2階
住戸数	88戸
店舗数	20店
駐車台数	165台
駐輪台数	施設用150台
	住宅用188台
都市計画	商業地域(80/600)
	防火地域, 地区計画
	駐車場整備地区
	高度利用地区



⑧ ハピリン(福井駅西口再開発)施設の利用形態



③ 田原町駅周辺の整備（福井市）

・相互乗り入れにより改修された田原町駅の周辺に、交流広場を整備（H29完成予定）

田原町駅周辺整備

（目的）

- ・相互乗り入れ事業に引き続き、周辺広場等を整備し、安全性、利便性の向上、利用者の増加を図る。

（事業概要）

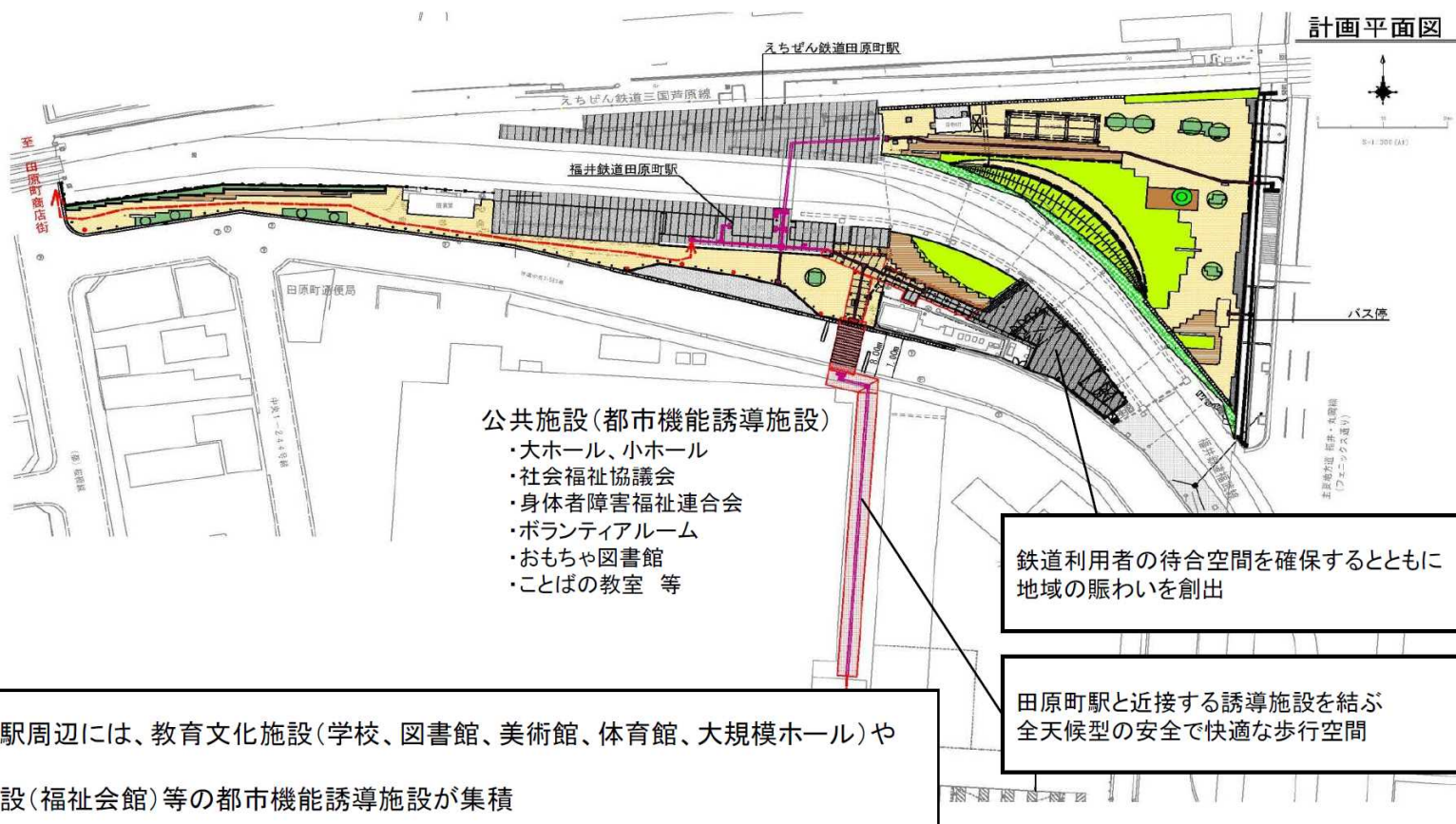
- ・駅周辺広場整備 A = 約3,300 m²
- ・多目的待合施設整備 A = 約165 m²
- ・通路・シェルター整備 L = 約65m
- ・駐輪場整備（北広場） 48台分

（事業費）

- ・約4億円
- （国費 約1.9億円
市費 約2.1億円）

（事業期間）

- ・平成26年度 基本設計
- ・平成27年度 詳細設計 着工
- ・平成29年度 完成予定



③ 田原町駅周辺の整備（福井市）

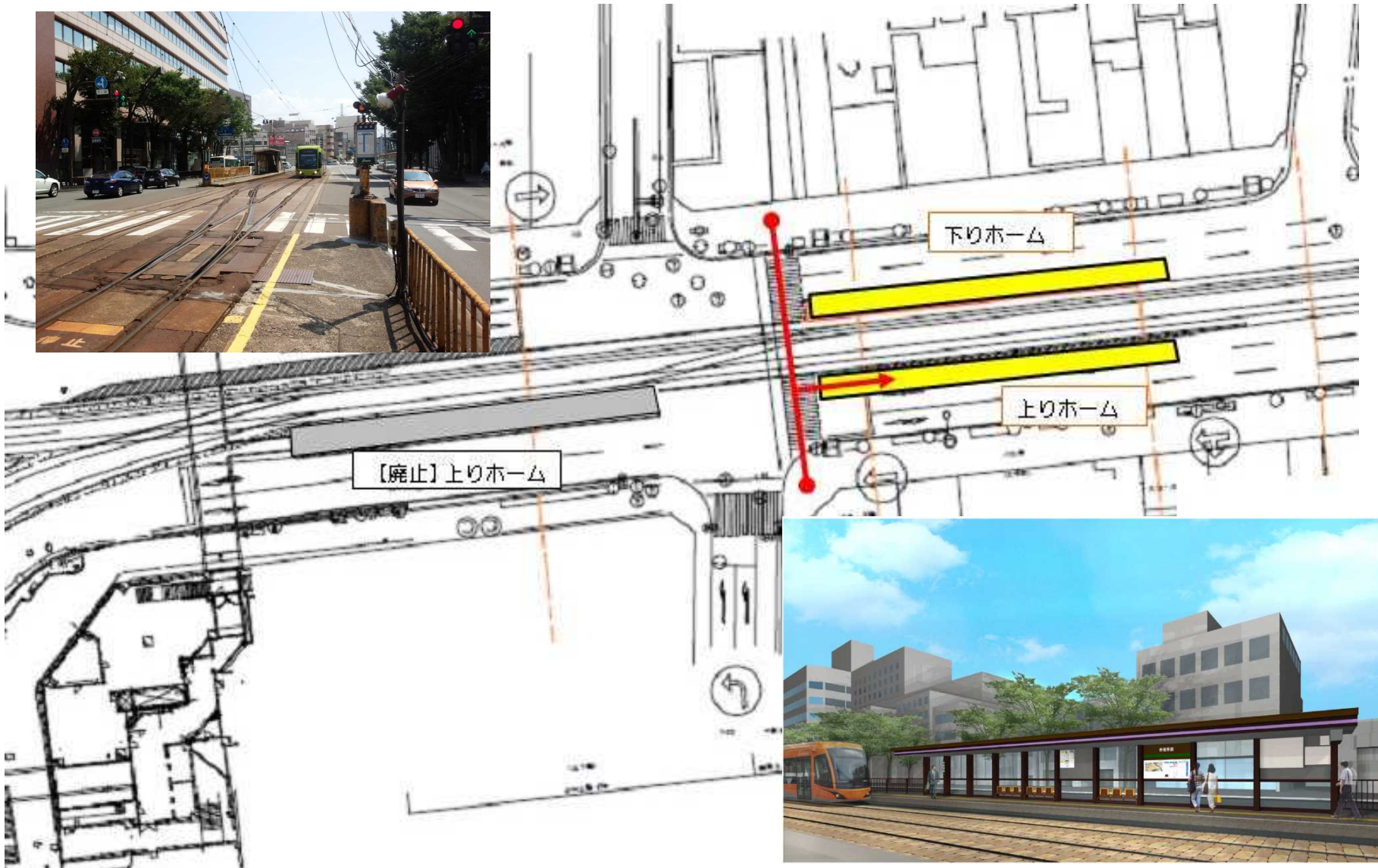
（完成イメージ）



⑥ 市役所前電停の改修

市役所前電停のバリアフリー化を図り、乗換え利便性の向上を図る

事業期間：平成28年度～平成29年度



福井県高速交通開通アクション・プログラムの策定（平成28年3月）

北陸新幹線敦賀開業や中部縦貫自動車道全線開通など、高速交通の「開通効果」を極力高め、県内全域に浸透させるため、「県民共有の行動計画」として作成したもの

高速交通開通の効果

- ① 首都圏との直結
- ② 奥越地域が中京圏との玄関口に
- ③ 北陸三県が1時間圏内に

<重点テーマ>

I 「交通の革新」による地域交通ネットワークの強化

①新幹線4駅の交通拠点機能の強化

- ・並行在来線、地域鉄道、バスを一体的に組み合わせ、経営とサービスを強化
- ・福井市中心部における歩行者と鉄道が共存できる空間や市内循環鉄道の整備を検討 など

②新しい技術や手法の導入

- ・ICカード乗車券や観光客向けカーシェアリングの導入
- ・クルマの自動走行の実証

II 「都市の改造」と「ふるさと資産」の価値創造

並行在来線とは

開業区間 (H27.3.14) (直江津～金沢178km)

石川県内区間
I.R いしかわ鉄道(株)
倶利伽羅～金沢
21km、5駅
輸送密度 約15,600人/日 (H27年度)



新潟県内区間
えちごトキめき鉄道(株)
直江津～市振
61km、12駅 (直江津含む)
輸送密度 約1,400人/日 (開業時推計)

福井県内区間
石川県境～敦賀
79km、18駅
輸送密度 約5,000人/日

富山県内区間
あいの風とやま鉄道(株)
越中宮崎～石動
96km、19駅
輸送密度 約7,500人/日 (H27年度)



重要な役割を担う北陸本線

◆北陸本線の役割

地域に欠かせない公共交通

北陸本線の県内区間の乗車人員

約**19,000**人/日

参考：えちぜん鉄道 約9,500人/日
福井鉄道 約5,400人/日



貨物ネットワークの重要路線

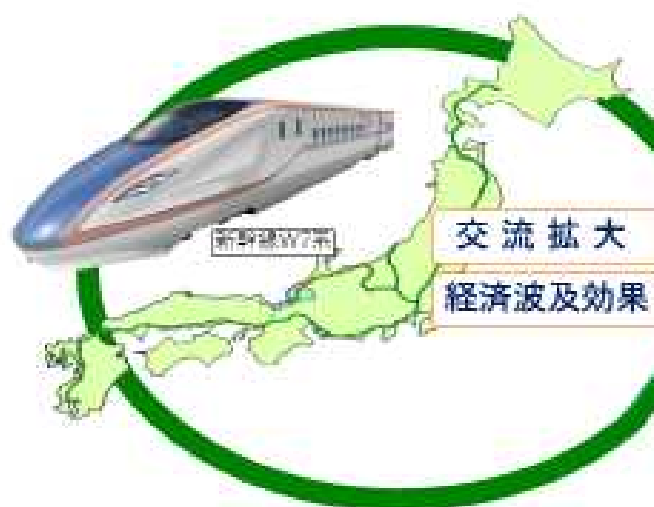
県内の貨物通過トン数

約**290万**トン/年

全国輸送量の約**9%**相当



◆新幹線開通後の北陸本線



新幹線の効果を地域に波及
欠かせない地域交通



I-1 新幹線開業対策 福井駅周辺エリア (アクション・プログラムから抜粋)

○エリアの方向性

- ・県都デザイン戦略の第2期プロジェクトの具体化と実行(福井城址公園の整備、都市インフラのリニューアルなど)
- ・中世歴史遺産(一乗谷朝倉氏遺跡、永平寺門前)の魅力向上の加速化
- ・福井駅と周辺の拠点を結ぶ二次交通の強化

県都デザイン戦略の実行

福井城址を核に、歴史を活かした県都のまちづくりを実行

- ・山里口御門の復元
- ・中央公園の再整備
- ・グリフィス記念館の整備
- ・由利公正広場の整備 など

福井駅周辺の整備

福井駅周辺の整備や公共交通の利便性を向上

- ・福井駅西口・東口広場、再開発ビルの整備
- ・えちぜん鉄道と福井鉄道の相互乗入れ
- ・えちぜん鉄道の高架化
- ・福井鉄道福武線福井駅前線の延伸 など

越前海岸の周遊観光ルート化

越前海岸ラインを新しい観光ルートとしてネットワーク化

- ・北前船主館群の景観整備
- ・金ヶ崎周辺の整備
- ・里山里海湖の景観保全 など

広域道路等の整備促進

- ・国道8号 福井バイパス
- ・国道364号 永平寺インター道路
- ・国道158号バイパス
- ・道の駅「禅の里」など

松岡地区のまちづくり

- ・「禅」、「食」、「酒」をテーマとしたまちづくりを実行
- ・観光交流施設(拠点)の整備

永平寺門前の再生

本物の禅の心にもふれる体験観光の充実やまちなみの整備

- ・宿泊施設や観光案内所の整備
- ・旧参道や永平寺川の景観形成 など

一乗谷朝倉氏遺跡のレベルアップ

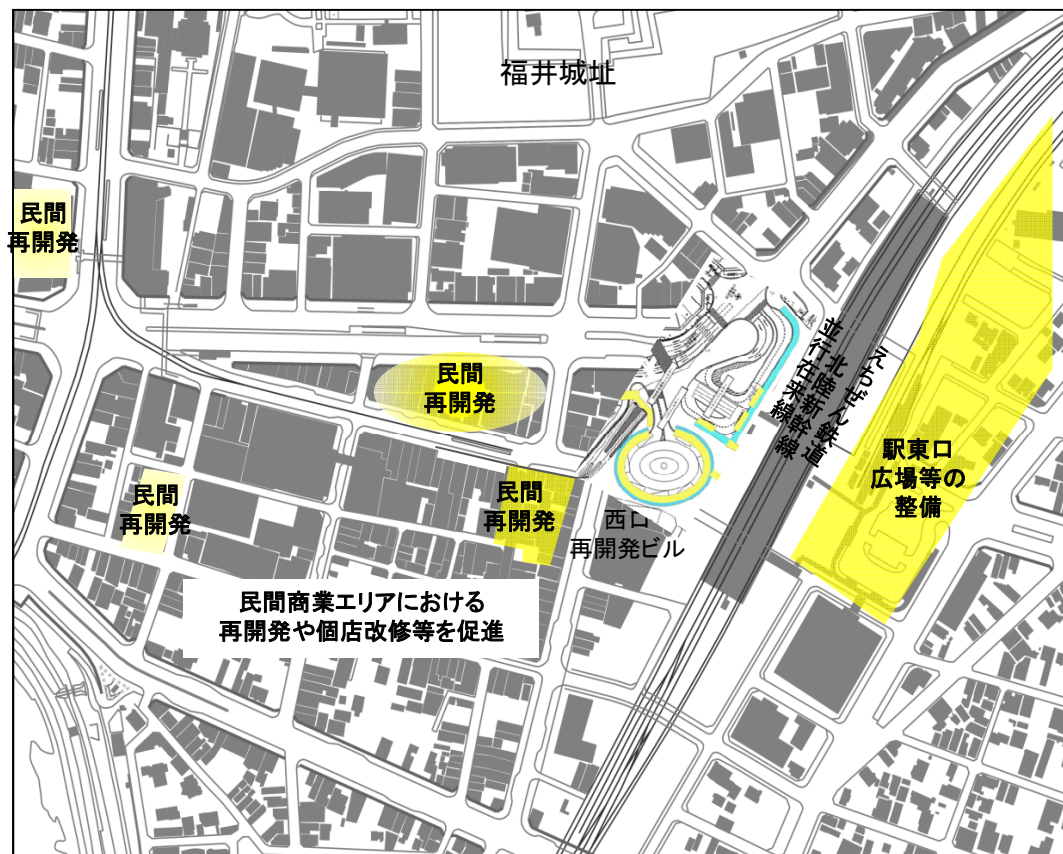
日本最大の戦国城下町跡として、「一乗谷ミュージアム」化を推進

- ・新たな博物館の整備
- ・山城部の環境整備や露出展示の実施
- ・展望所の整備や無電柱化の拡大
- ・中世都市遺跡研究の拠点化 など

1-1(1) 福井駅および駅周辺のまちづくり

これまでの成果	平成29年度以降の予定	開業までに実現を目指す施策
・駅西口広場、再開発ビルの整備(福井市、H27) ・自然史博物館分館(ドームシアター等)の整備(福井市、H27) ・えちぜん鉄道と福井鉄道の相互乗入れ(H27) ・福井鉄道福武線福井駅前線の延伸(H27) ・新幹線駅舎デザインのコンセプト提案(H28)	・駅東口広場等の整備(市、～H30) ・えちぜん鉄道の高架化(県、～H30) ・市内循環鉄道の調査(県、H28～) ・個店の改修等への支援(県・市、～H29) ・福井駅・城址周辺地区での再開発(民間)	・民間・行政による新幹線高架下の有効活用 ・新幹線駅舎構内への観光案内所の設置 ・公共施設の再配置等による市中心部への都市機能の再集約 ・民間の再開発事業にあわせた歩行者と鉄道が共存できる空間の検討

駅西口広場や西口再開発ビル整備に続き、えちぜん鉄道の高架化など、新幹線延伸に向けて福井駅周辺を整備します。また、老朽化ビルの更新やリノベーションへの民間投資を促進し、県都の賑わいづくりを推進します。



出所 福井県作成、福井市提供

※区域は概ねの位置を示したもの

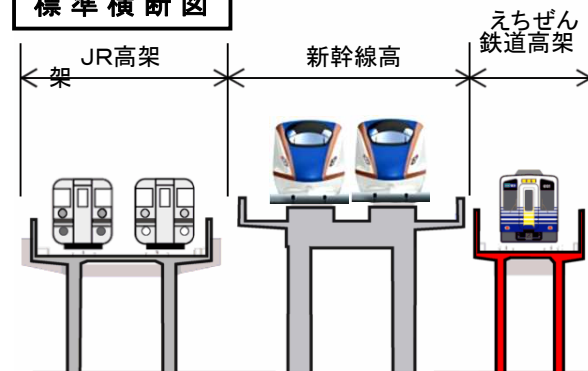
〇29年度実施事業【福井県】

- ・えちぜん鉄道高架工事(H24～H30)
(福井駅付近連続立体交差事業 825,600千円)
- ・福井市が行う駅東口広場等の整備支援
(福井駅周辺土地区画整理支援事業 4,600千円)
- ・個店の改修等の支援
(おもてなし商業エリア創出事業 73,873千円の内数)

〇29年度実施事業【福井市】

- ・市街地再開発事業等の支援、駅東口広場等の整備
(市街地再開発事業等支援事業 273,300千円
福井駅周辺土地区画整理事業 372,673千円)
- ・個店の改修等の支援
(おもてなし商業エリア創出事業等 18,450千円)

標準横断面図

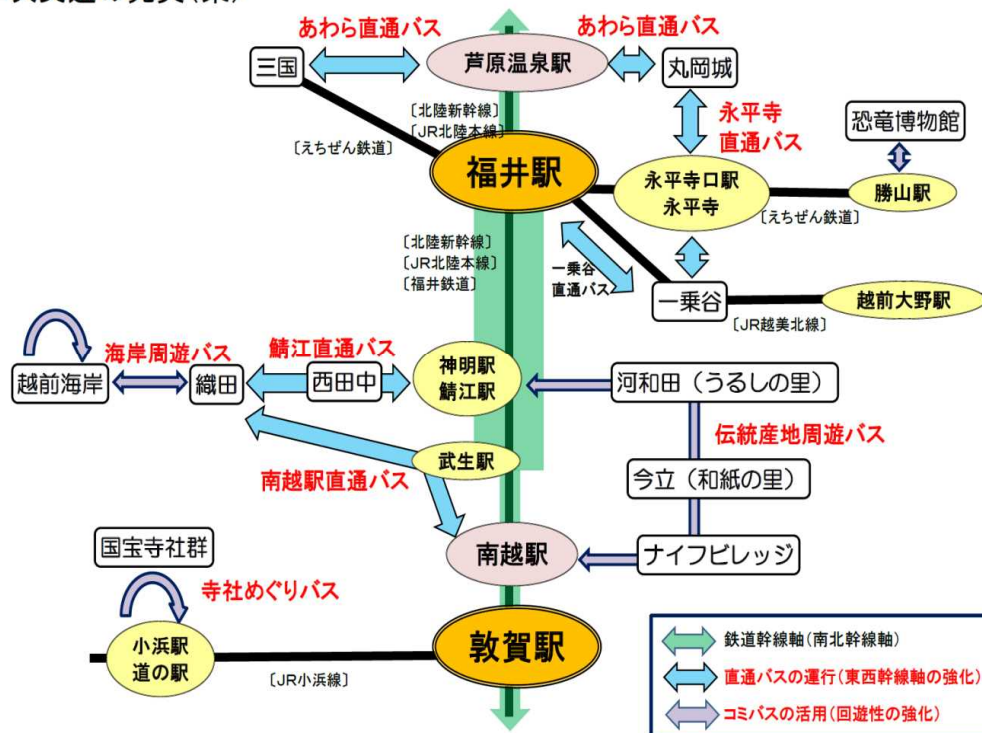


Ⅲ－（１）地域公共交通ネットワークの拡充

これまでの成果	平成29年度以降の予定	開業までに実現を目指す施策
・えちぜん鉄道と福井鉄道の相互乗入れ〔再掲〕 ・福井鉄道福武線福井駅前線の延伸〔再掲〕	・えちぜん鉄道の高架化〔再掲〕 ・市内循環鉄道の調査〔再掲〕 ・北陸本線駅へのICOCAの導入〔民間、～H30〕	・歩行者と鉄道が共存できる空間整備の検討〔再掲〕 ・新幹線駅からの二次交通の確保

新幹線駅を中心として、JR・並行在来線、地域鉄道、バス等を一体的に組み合わせ、利便性の高い地域公共交通ネットワークを実現します。

二次交通の充実(案)



今後の拡充方針

(JR・並行在来線、地域鉄道)

- ・並行在来線、地域鉄道、バスを一体的に組み合わせ経営とサービスを強化
- ・北陸本線の第3セクター化後の新駅設置

(路線バス、コミュニティバス)

- ・市町を超える広域バスの運行
- ・コミュニティバスを休日の観光地循環バスとして活用
- ・福井駅から主要観光地への特急バスを運行
- ・福井市のまちなか観光エリアのバスを低料金化

(その他)

- ・ICカード乗車券の導入
- ・クルマの自動走行の実証・導入拡大
- ・観光客向けカーシェアリングの拡大
- ・道路空間の再配分により、歩行者や自転車の快適な利用環境を確保

ICカードの導入

福井新聞

平成29年2月1日(水)

カード乗車券

ICOCA 県内来夏導入

JR西 北陸線駅に自動改札

2018年夏にJR西の北陸線
県内区間に導入されるJR西
日本のICOCA乗車券「
ICOCA(イコカ)」



JR西日本金沢支社は31日、ICOCA乗車券「ICOCA(イコカ)」を、福井県・全国障害者スポーツ大会前の2018年夏に北陸線県内区間に導入する予定と発表した。牛ノ谷駅(あわら市)から新庄田駅(敦賀市)まで19駅で運賃を支払うことがで

き、指定店舗では買い物にも使えるようになる。

同日、JR西金沢支社の児島邦昌支社長が県庁を訪れ、西川知事に説明した。県は福井国体までの導入をJR西に要望していた。

ICOCA乗車券は、券売機などで事前に入金(チャージ)し、自動改札機の読み取り部分にかざすと運賃が引き落とされる仕組み。JR西によると、福井県内の導入整備費は約7億円の見込みという。JR西管内の2府16県で自動改札機が導入される最後の県となる。首都圏の「Suica(スイカ)」など互換性のある他エリ

アのICOCA乗車券も福井県内で北陸線を利用する場合に自動改札機を使えるため、県外客にとっても便利になる。

児島支社長は県庁で、西川知事に「福井国体には必ず間に合わせる」と述べ、詳しいサービスの内容や開始日は決まり次第報告するとした。

また「えちぜん鉄道や福井鉄道、路線バスなど、他の交通事業者とも同じICOCA乗車券のシステムで相互に利用できるよう、働き掛けを進めていきたい」と述べた。西川知事は「できるだけ早く実現するようお力添えを」と求めた。(大谷貴洋)



クルマの自動走行の実証・導入拡大①

ラストマイル自動運転 車両技術の開発の推進

- 2020年度にラストマイル自動運転による移動サービスを実現するため、経済産業省と連携し、**車両技術の開発を推進**。
- あわせて、**車両技術の開発状況に応じ、安全性を検証**（保安基準への適合性の確認、基準緩和措置における安全性確保の検証等）。

小型カート

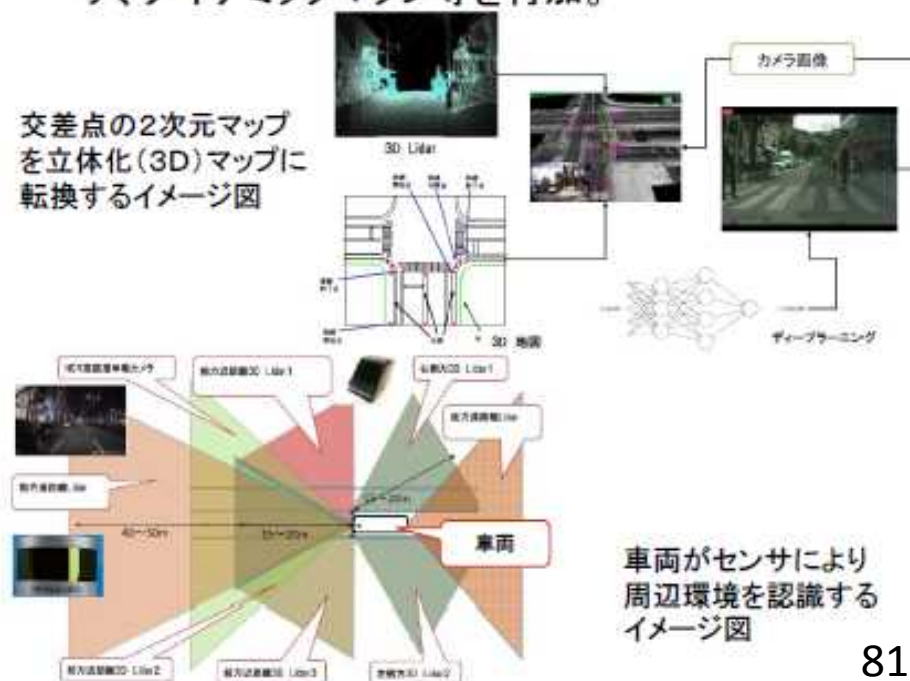
- 既存の電動カートを改造し、自動走行に必要な技術を付加。
- 具体的には、誘導線検知、障害物対応、前走車追従のためのセンサ等を付加。



小型カートに付加される自動走行技術の例

小型バス

- 既存の小型バス車両を改造し、自動走行に必要な技術を付加。
- 具体的には、周辺を広範囲に認識するためのセンサ、ダイナミックマップ等を付加。



車両がセンサにより周辺環境を認識するイメージ図

クルマの自動走行の実証・導入拡大②

ラストマイル自動運転 実証実験の実施②

②【過疎地モデル】 福井県永平寺町（小型カート利用） ＜駅から住居地、観光施設の往復、住民と観光客の併用＞

1. 地域概況



- ・概況: 永平寺を中心とした観光地・過疎地域
- ・人口: 2,697人
- ・高齢化率: 27.5 %
- ・観光客数: 581,2620人
(うち外国人観光客数: 10,754人)

2. 走行ルート



3. 走行地域イメージ



永平寺

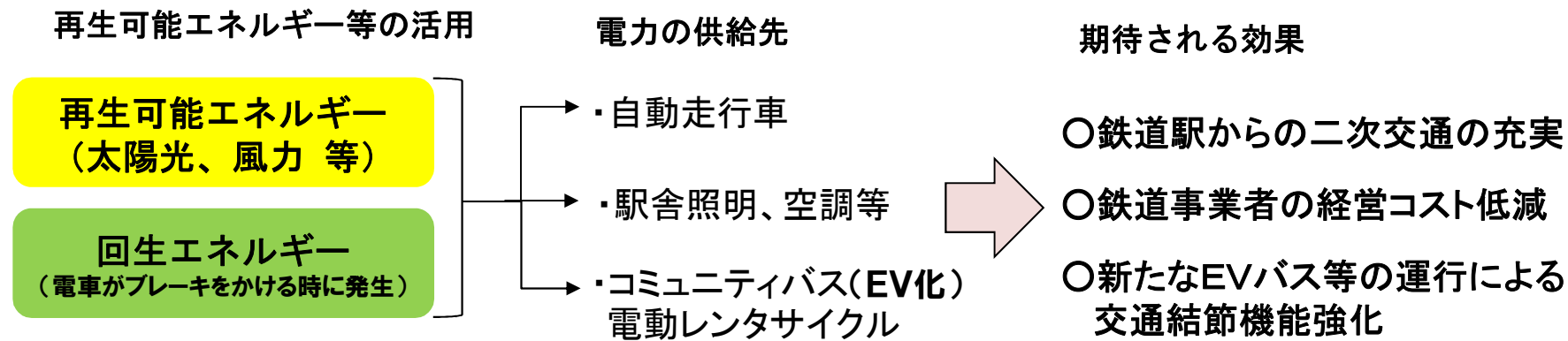
※ルートや走行地域イメージは
未確定

- 永平寺口駅と永平寺を結ぶルート。現在遊歩道として利用している廃線跡地を実証コースとして想定。
- 朝晩は通勤通学者の永平寺口駅への移動手段として、日中は観光客の永平寺への移動手段として利用されることを想定。

利便性の高い地域公共交通ネットワークを目指して

1 福井ふると元気宣言の実現

交通機関への再生可能エネルギー活用事業（330百万円）



(1) 鉄道駅の交通結節機能強化

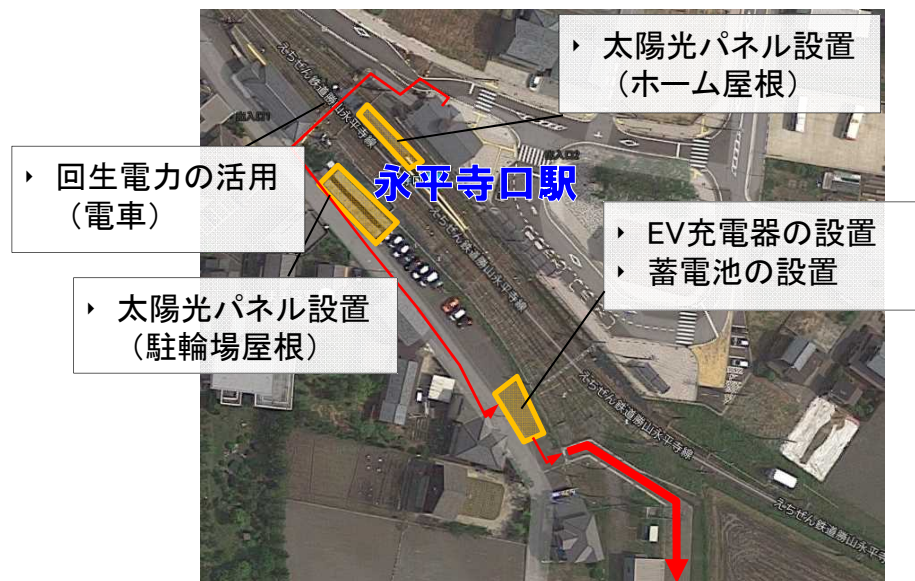
〔事業費:300,000千円〕

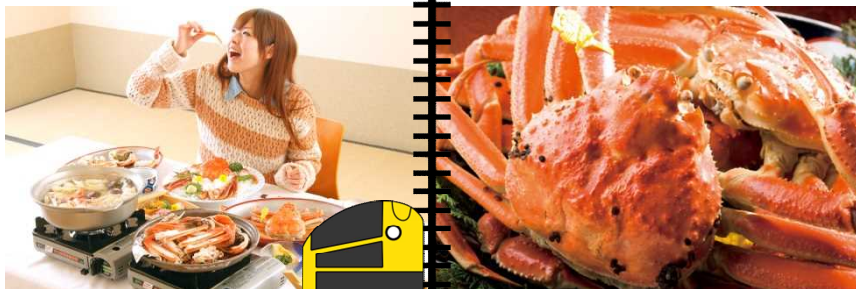
鉄道駅周辺に再生可能エネルギー設備を導入し、
駅を中心とした交通結節機能を強化
(パイロット事業として、えちぜん鉄道永平寺口駅で実施)

(2) 他駅への導入可能性調査

〔事業費:30,000千円〕

将来の並行在来線や地域鉄道の駅施設等への
導入を検討するため、想定される設置場所や
発電量を調査





いっぺんきてみねの！ふくい



ご清聴ありがとうございました